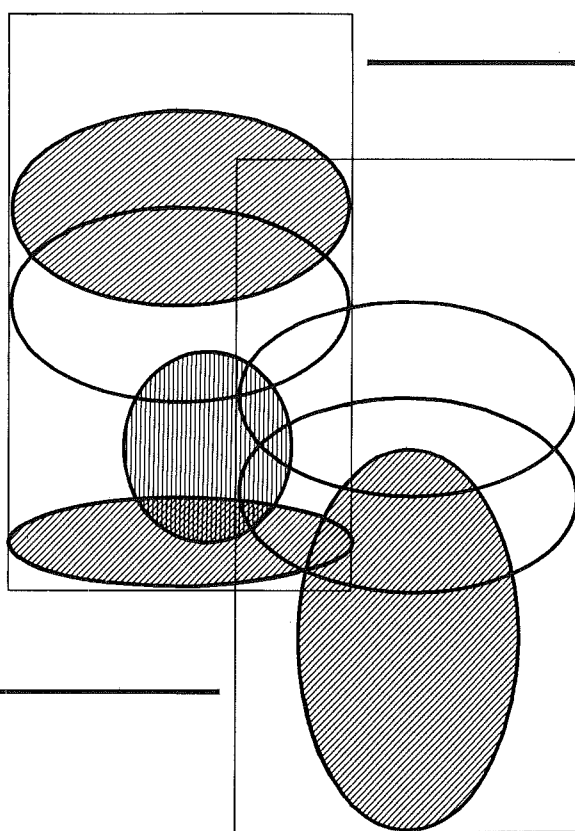


ISSN0385-0293

No18

沖縄県立博物館年報



1985

沖縄県立博物館

OKINAWA
PREFECTURAL MUSEUM

目 次

序	館長 大 城 立 裕	
沿 革		1
施設・設備		3
予 算		5
組 織		6
事 業		8
(1) 常設展		8
(2) 企画展		11
(3) 移動博物館		19
(4) 教育普及		22
(5) 資料貸出		23
(6) 燻 蒸		23
(7) 調査・研究		24
(8) 刊行物		27
入館者数		28
(1) 入館者数		28
(2) 県内小中高入館一覧		29
収蔵資料		30
(1) 昭和59年度収蔵資料		30
(2) 収蔵資料現在高		30
(3) 昭和59年度新収蔵品目録		31
(4) 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表		34
日誌 (抄)		35
当館関係条例規則 (抄)		39

序

昭和59年度の業務について報告書を刊行します。

沖縄県立博物館は、沖縄の戦後における文化再生の象徴的存在であります。立地の首里は、琉球国の王城のあった場所で、その周辺には戦前、国宝建造物が22件もありました。それらが、第二次大戦ですべて灰燼に帰したのを、地元の有志たちが残欠を収集して一か所にまとめ、それがやがて、かねて米軍によって「沖縄陳列館」という名で造られていた東恩納博物館と合併して、この博物館に成長したのであります。

その後、県の内外に資料収集活動を展開し、また熱心な資料寄贈を受け、今日見られるまでに成長してきました。

県民一般、学生、学童はもとより、県外からの観光客にとっても、沖縄の自然、歴史、文化を端的に学ぶことのできる施設として、貴重なものとしてされています。

現在、収蔵品が2万点をこえました。これを収蔵し展示する施設として、かなり不満足かつ旧式なものとなったことは、現実のこととして否むことはできません。

ただ、その限界のなかで、資料収集や展示のほか、学芸員の研究や、全国的にも高い評価を受けるようになった移動博物館の続行などの努力をしてきました。博物館文化講座は、この種の講座としては、沖縄での草分けであったのですが、他に多くの同類が現れたので、あらためて博物館らしいスタイルに衣替えをしました。

総合博物館としては、まだまだ問題をかかえていますが、それを理解し、あわせて今後の目標をたてるための一助として、館の年報を刊行します。ご助言、ご協力をお願いします。

昭和60年5月

沖縄県立博物館長 大 城 立 裕

沿革

(戦前)

1936年 7 月 沖縄県教育会附設として「沖縄郷土博物館」が首里城内北殿を使用して開館される。

1945年 3～5 月 沖縄戦で「沖縄郷土博物館」全焼。

(戦後)

1945年 8 月 米国海軍軍政府により残次文化財が収集され、石川市東恩納に「沖縄陳列館」が設立される。

1946年 3 月 首里で首里城周辺の廃墟から残次文化財の収集活動が行われ、「沖縄郷土博物館」が設立される。

1946年 4 月 沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称。館長に大嶺薫就任

1947年12月 首里市の沖縄郷土博物館は沖縄民政府に移管され「首里博物館」と改称。館長豊平良顕就任 (1948年 3 月退職)

1948年 8 月 首里博物館長に原田貞吉就任

1953年 5 月 首里博物館は首里当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。首里博物館と東恩納博物館が合併。館長は原田貞吉、大嶺薫は退職

1955年 5 月 館長原田貞吉退職

1955年 8 月 館長山里永吉就任

1955年 9 月 首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称

1958年 8 月 館長山里永吉退職

1958年 9 月 館長金城増太郎就任

1961年12月 館長金城増太郎退職

1962年 2 月 館長大城知善就任

1965年 首里大中町尚家跡土地購入(195,751ドル)

1966年10月 米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建(3,294㎡ 1 階 356,000ドル)の新館が落成移転。

1966年12月 中央教育委員会規則第58号「琉球政府立博物館管理規則」「琉球政府立博物館施設使用規則」、同59号で「琉球政府立博物館の職員の勤務時間及び勤務時間の割振りに関する規則」制定、入館料大人10仙、学生 5 仙、児童生徒 2 仙、団体 2 割引徴収決まる。

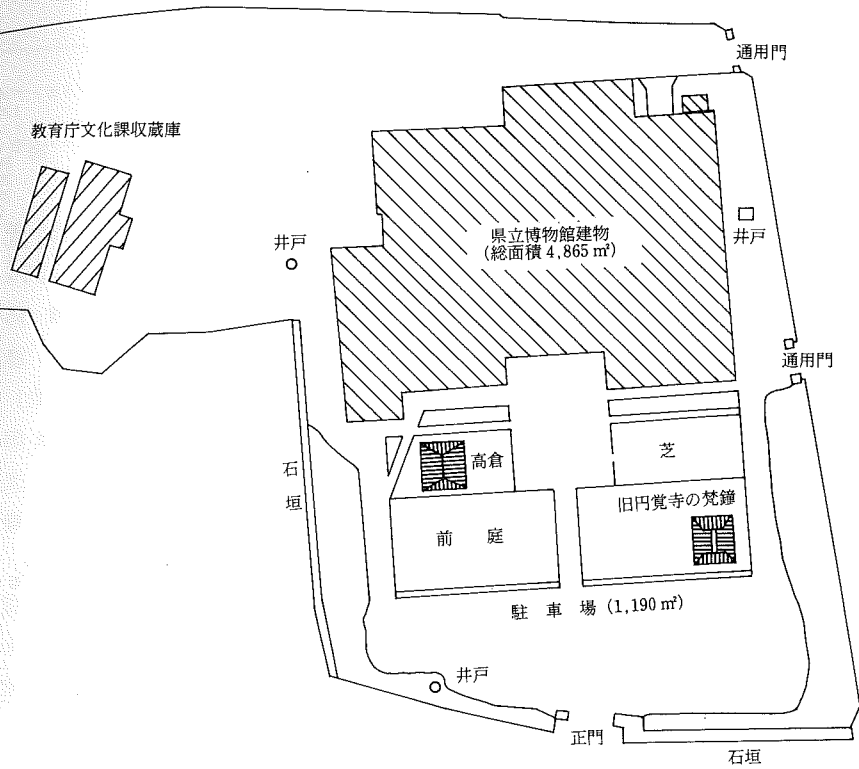
1967年12月 「琉球政府立博物館運営協議会規則」制定。

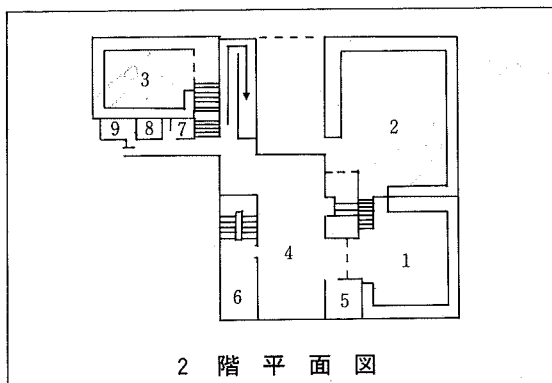
1969年 3 月 「琉球政府立博物館館報」創刊。

- 1969年11月 館長大城知善退職
- 1969年12月 館長外間正幸就任
- 1972年5月 日本復帰にともない、館名を「沖縄県立博物館」と改称。
- 1972年10月 沖縄県立博物館運営協議会規則制定
- 1973年2月 国庫により 1,571m²(102,484千円のうち25,621千円国庫) 2階を増築。
展示室が3室ふえる。
- 1975年3月 沖縄立博物館紀要第1号創刊
- 1976年4月 創立30周年記念事業挙行。
- 1976年4月 入館料一般50円を100円に、中小学生10円を20円に、特別企画展500円に
改正。
- 1979年8月 空調・防災総替え工事2か年計画で着工、初年度は展示室のみ。(1980年10)
- 1980年1月12日 特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」ならびに「沖縄県立博物
館名品展」開催(2月3日まで)
- 1980年2月 第1回移動博物館(久米島具志川村、仲里村)
- 1980年3月 「沖縄県立博物館総合調査報告書—粟国島(あぐにじま)」刊行。
- 1980年11月1日 特別展「失われた生物たち—大恐竜展—」開催(30日まで)
- 1981年3月30日 当館、博物館法に基づき登録される。
- 1981年4月1日 館長外間正幸退職、同日大城徳次郎就任
- 1981年10月17日 特別展「沖縄の美展—日本民芸館蔵—」ならびに「戦前の沖縄の写真
展」開催(11月28日まで)
- 1982年5月7日 自然展示、常設室を新たに設ける。
- 10月30日 特別展「熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化—」開催(11月28
日まで)
- 1983年4月1日 館長大城徳次郎敬奨退職、同日大城立裕就任
- 11月8日 特別展「沖縄県・熊本県交流展『沖縄の美—風土と美術工芸—』」
会場：熊本県立美術館(12月11日まで)
- 1984年3月20日 沖縄県立博物館資料査定委員会規則制定。

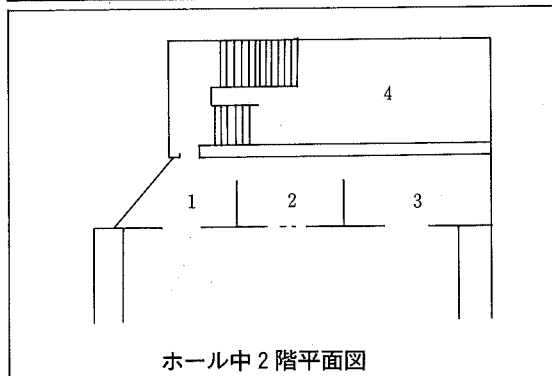
設備

施設配置図

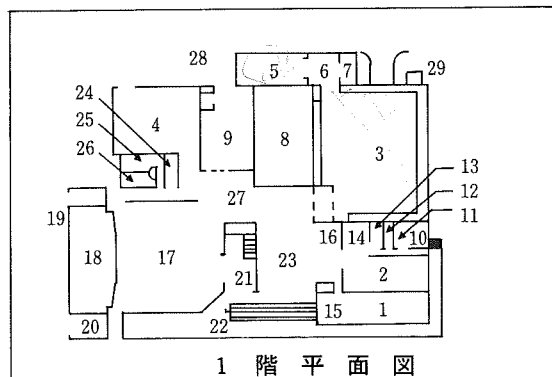




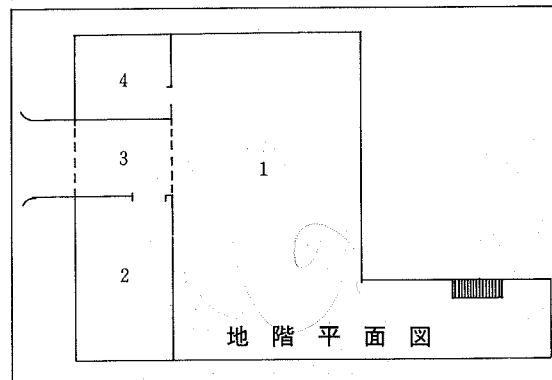
2 階 平 面 図



ホール中 2 階 平 面 図



1 階 平 面 図



地 階 平 面 図

●概 要

敷地面積	1階及び講堂部 2,893	2階 1,571	11,246㎡
建物面積 (㎡)	計 4,865		
展示面積	1階 632	2階 701	計 1,333
ロビー面積	513		
収蔵庫面積	677		
駐車場面積	1,190		
庭園面積	1,612		
空調機能力	ヒートポンプ式チリングユニット 125,000kcal/h×2機		
	エアハンドリングユニット 7機		
	パッケージ型エアコン 56,000kcal/h×1機		
	28,000kcal/h×1機		
	20,000kcal/h×2機		
	8,400kcal/h×1機		
変電室	電灯 1φ3W	30KVA×1機	
	電灯・動力 3φ4W	100KVA×1機	
	動力 3φ3W	200KVA×1機	
	動力 3φ3W	250KVA×1機	
契約電力	335KW		
講堂	客席数	1階434席	
		2階196席	
		計630席	

●室名と面積

2 階	室 番 号	室 名	面 積	㎡
	1	美術工芸展示室	265	
	2	民俗展示室	436	
	3	漆器収蔵庫	170	
	4	ロビー	257	
	5	空調室	29	
	6	ホール控室	59	
	7	化粧室 (女)	6	
	8	化粧室 (男)	11	
	9	空調室	12	
ホール中 2 階	1	調光室	17	
	2	映写室	19	
	3	音響効果室	25	
1 階	室 番 号	室 名	面 積	㎡
	1	事務室	115	
	2	資料室	96	
	3	歴史展示室	462	
	4	自然展示室	170	
	5	収蔵庫	120	
	6	荷解場	32	
	7	陶磁器収蔵庫	11	
	8	中庭	152	
	9	厨子廻り収蔵庫	91	
	10	宿直室	11	
	11	湯沸室	8	
	12	化粧室 (男)	7	
	13	化粧室 (女)	9	
	14	図書室	28	
	15	館長室兼応接室	28	
	16	模型コーナー (首里城)	18	
	17	講堂 (客席)	428	
	18	ステージ	116	
	19	控室	19	
	20	控室	32	
	21	講堂出入口	37	
	22	守衛室	14	
	23	ロビー	256	
	24	倉庫	14	
	25	化粧室 (女)	21	
	26	化粧室 (男)	17	
	27	売店	10	
	28	空調室	11	
	29	ポンプ室	5	
地 室	室 番 号	室 名	面 積	㎡
	1	収蔵庫	285	
	2	冷房機室	58	
	3	荷解場	28	
	4	変電室	30	

予 算

昭和59年度博物館費（決算）

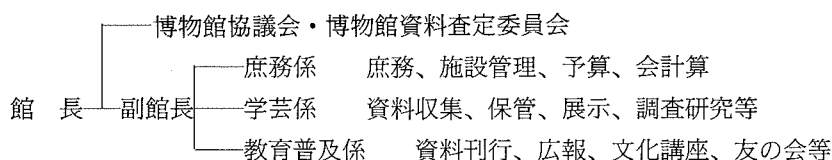
	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報 酬	83,200	0	83,200
賃 金	372,000	110,080	482,080
報 償 費	263,300	156,000	419,300
旅 費	933,820	1,000,030	1,933,850
普 通 旅 費	(933,820)	(1,000,030)	(1,933,850)
需 用 費	21,034,173	5,718,910	26,753,083
消 耗 品 費	712,380	987,980	1,700,360
燃 料 費	62,077	0	62,077
(食 糧 費)	(44,320)	0	(44,320)
印 刷 製 本 費	1,270,120	2,622,930	3,893,050
光 熱 水 費	18,155,816	0	18,155,816
修 繕 費	789,460	2,108,000	2,897,460
役 務 費	1,662,218	3,203,400	4,865,618
通 信 運 搬 費	1,002,720	3,180,000	4,182,720
手 数 料	640,378	0	640,378
保 險 料	19,120	23,400	42,520
委 託 料	10,292,000	315,000	10,607,000
使用料及び賃借料	69,000	0	69,000
工 事 請 負 費	1,630,000	0	1,630,000
備 品 購 入 費	10,047,445	355,700	10,403,145
負担金補助及交付金	64,000	0	64,000
公 課 費	18,900	0	18,900
合 計	46,470,056	10,859,120	57,329,176

昭和59年度歳入状況（決算）

科目名	内訳	常 設 展
博物館使用料		7,759,444
建物使用料		34,373
合 計		7,793,817

組 織 (昭和60年4月1日現在)

(1) 機構



(2) 職員構成

職 名	氏 名	担 当 業 務	備考
館 長	大 城 立 裕	博物館業務の総理に関すること。	
副 館 長	宜 保 栄 治 郎	館長補佐、庶務係、学芸係、教育普及係との調整に関すること。	
庶 務 係 長	村 山 勝 信	庶務、施設管理、予算、事業に関すること。	
主 事	仲 里 富 代	予算決算、会計事務に関すること。	
主 事	上 間 尚 子	庶務、歳入、事務に関すること。	
技 師	平 田 典 夫	施設管理に関すること。	
学 芸 係 長	上江洲 均	学芸業務の統轄及び民俗資料に関すること。	
学 芸 員	上江洲 敏 夫	博物館資料の受け入れ、整理分類及び歴史資料に関すること。	
充 指 導 主 事	津波古 聡	調査、研究、保存修理、写真撮影、沖博協及び美術工芸に関すること。	
教育普及係長	知 念 勇	教育普及業務の統轄及び考古資料に関すること。	
主 任 学 芸 員	日 越 国 昭	教育普及、移動博、沖博協及び自然資料に関すること。	
学 芸 員 補	与那嶺 一 子	教育普及、保存修理及び美術工芸に関すること。	

非 常 勤 職 員 (委託業務)	氏 名	担 当 業 務
教育普及補助員	小 野 まさ子	解説員
受 付	西 平 節 子	受付、一階ロビー監視に関すること。
監 視	東 美智子	主として第一展示室
〃 〃	西 平 勝 子	主として第三展示室と二階ロビー
〃 〃	本 部 光 子	主として第四展示室
〃 〃	照 屋 カ ツ	主として第五展示室

非 常 勤 職 員	氏 名	担 当 業 務	備考
友 の 会	池宮城 啓 子	主として庶務会計	

(3) 人事異動

職 名	氏 名	内 容
係 長	村 山 勝 信	転入、教育庁奥武山総合運動場から 60年4月1日付
主任専門員	日 越 国 昭	転入 教育庁文化課から 60年4月1日付
技 師	平 田 典 夫	転入、土木建築部那覇下水処理場から 60年4月1日付
係 長	幸 地 右 雅	転出 教育庁奥武山総合運動場へ 60年4月1日付
学 芸 員	当 山 昌 直	転出、教育庁文化課へ 60年4月1日付
技 師	下 地 栄	転出、土木建築部那覇下水処理場へ 60年4月1日付

(4) 沖縄県立博物館協議会委員会名簿

(昭和60年3月31日現在)

学 識 経 験 者	安次富 長 昭 (会 長)	琉球大学教育学部教授
	高 宮 廣 衛 (副 会 長)	沖縄国際大学学長
	野 原 朝 秀	琉球大学教育学部教授
	外 間 政 彰	那覇市立図書館長
学校教育	宮 城 久 一	沖縄中学校校長会長
関 係 者	福 地 廣 昭	沖縄県教職員組合副委員長
社会教育	宮 里 悦	沖縄婦人連合会会長
	照 屋 忠 英	県議会文教厚生委員会委員長
関 係 者	馬 場 俊 光	沖縄タイムス社編集局長
	外 間 正四郎	琉球新報論説委員長

(5) 沖縄県立博物館資料査定委員会

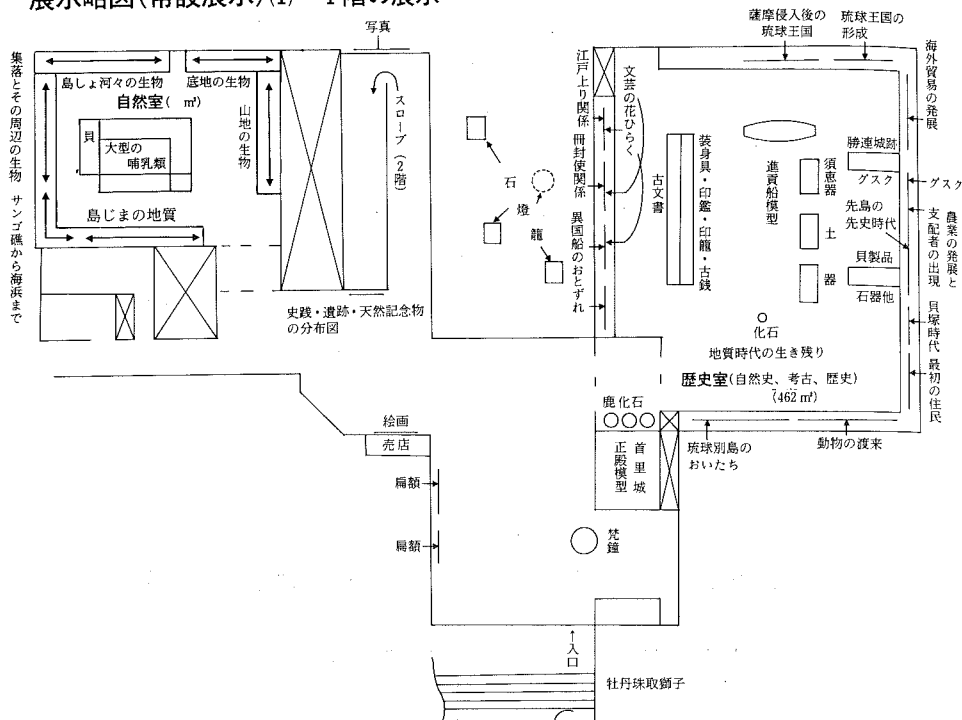
(昭和60年3月31日現在)

氏 名	職 名	専 門
大城清徳	琉球文化社々長	絵画、陶器
当間恵喜	文化財修理協会理事	書跡、絵画
前田孝徳	漆芸家	漆器
宮城篤正	浦添市立図書館長	絵画、陶器
吉戸 直	古美術商	美術工芸全般

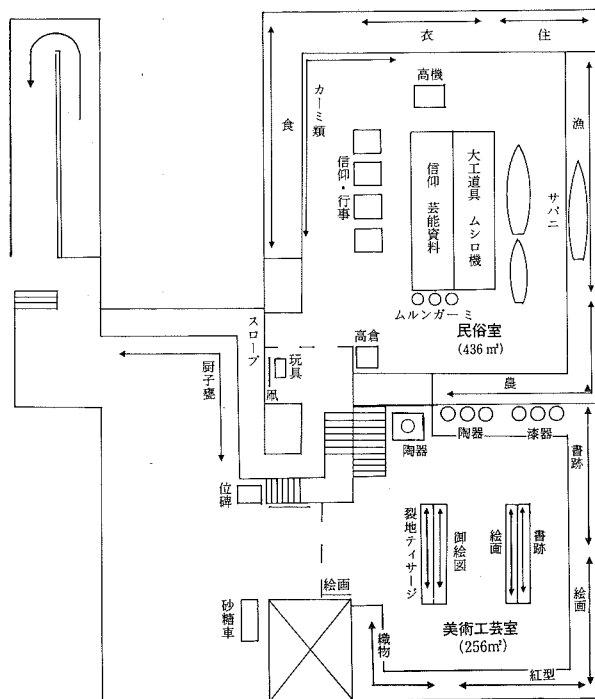
事業

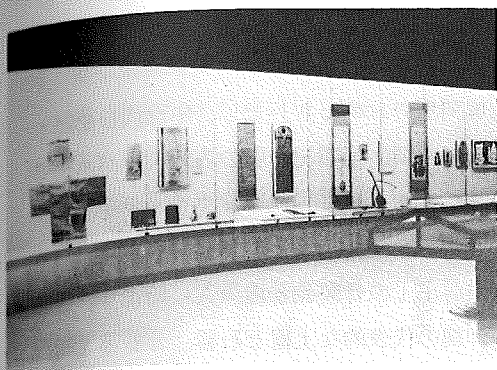
(1) 常設展

展示略図(常設展示)(1) 1階の展示



(2) 2階の展示 (常設展示)

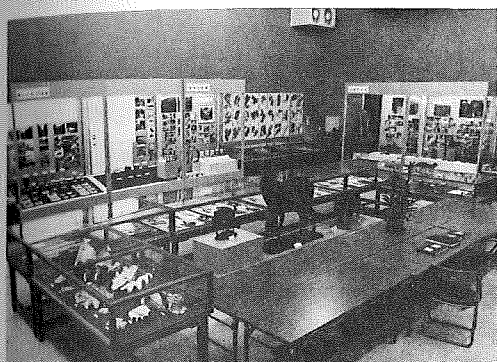




歴史展示室



歴史展示室



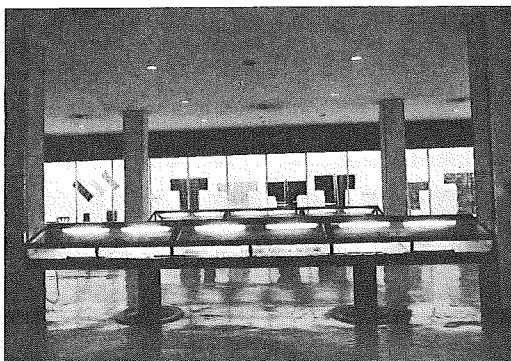
自然展示室



自然展示室



美術工芸室



美術工芸室



民俗室



民俗室

展示室は1階「歴史室」(自然史・考古・歴史)「自然室」(沖縄の自然)で2階は「美術工芸室」(美術工芸全般)「民俗室」の4室がある。

「歴史室」は地質時代から始まる。まず「琉球列島のおいたち」とし、中世代白亜紀・新世代第三中新世・新第三紀鮮新世・第四紀のはじめ頃、第四紀中頃の古地図をパネルで示し、それに対応して、イリオモテヤマネコの骨格標本、ハブ類、リュウキュウイノシシなどの生物標本を展示した。

それに続く、原始・古代は、山下町第一洞穴遺跡出土の骨製品と港川人に始まり、原始古代の編年表に合わせ、荻堂式・大山式土器等沖縄の代表的な土器と石器、骨器等を時代順に展し、それに続いて、宮古・八重山の原始・古代の土器・石器・陶磁器を展示、最後にグスク時代の出土遺物と写真パネルを展示した。

歴史時代は海外交易に関する首里那覇港図・八曲屏風・朝鮮鐘・陶磁器等を展示、続いて「琉球王国の形成」「薩摩入後の琉球王国」「江戸上りと冊封使」「文芸の花ひらく」「異国船のおとずれ」とノロ関係資料・おもろさうし・中山世鑑・奉使琉球図・江戸上り行列図・三味線等を展示。

「自然室」は1・島じまの地質(岩石標本・鉱物標本・大型化石・港川人)、2・サンゴ礁から海浜まで(さんご礁の生物Ⅰ・Ⅱ、磯の生物・砂浜の生物・マングローブの生物)、3集落とその周辺の生物(人家付近の生物・耕作の植物他)、4、島しょ河川の生物(自然度の高い河川の生物・汚染された河川と生物)、5、低地の生物(低地の植物、低地の動物、鍾乳洞と中の動物)、6、山地の生物(山地の植物、溪谷の生物、岩山の生物、山地の動物)、7、その他大型の貝・イモ貝・タカラ貝の仲間・ヘビ・トカゲの仲間・大型のkg乳類(ケラマジカ・リュウキュウイノシシ)・ヤンバルクイナ等を展示。

「美術工芸室」は、沖縄の陶器(古我地焼・湧田焼・喜名焼・壺屋焼)琉球漆器・織物・紅型・絵画・書籍を展示。

「民俗室」は、琉球列島の民具を農業・漁業・衣・食・住に分けて展示し、今年から芸能関係の資料を展示した。また2階ロビーには、砂糖車・位牌・厨子甕の資料も展示した。

(2)企画展

イ 新収蔵品展

会期：昭和59年5月15日（火）～5月27日（日） 会場：二階ロビー

1 趣 旨

前年度に寄贈・購入・収集・移管や交換で得た資料を一般公開する目的で毎年開催している企画展である。資料を紹介し、広く役立てることを目的とし、同時に資料を提供した方々への感謝の意味をこめて開くものである。

2 展示内容

昭和58年度新収蔵品 2,480点のうち、大半を出展した。

3 展示品目録

(1)購入の部

自然史「アンモナイト化石」(1点)、「狩猟鳥剥製」(9点)・美術工芸「牡丹文様紅型衣裳(木綿)」(他64点)・民俗「欽」(1点)

(2)寄贈の部

〔自然史〕 阿蘇山産輝石安山岩(52点)、岩石・鉱物・化石(86点)、八重山産セミ類(24点)、沖縄産昆虫標本(13点)、沖縄産のチョウとセミ(14点)、沖縄産チョウ類(245点)、昆虫類標本(1,727点)、

〔歴史資料〕 宜野湾間切新城里主所安堵辞令書(他19点) 朱熹書(拓本)

〔美術工芸〕 鄭嘉訓書 黒漆草木人物螺鈿椀 琉球人江戸上り行列図 鯉の図 男物帯

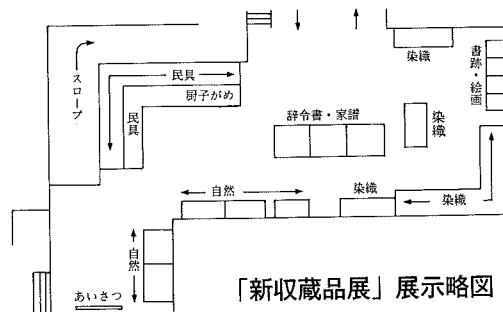
〔民 俗〕 民家模型 張り子獅子 厨子がめ(32点) 木綿袷紺地子供着物(24点)

(3)移管・交換・その他の部

〔自然史〕 中国産爬虫類(中国四川省、12点) 宮古ピンザアブの洪積世人頭骨レプリカ(10点) 化石鹿骨格復元レプリカ(5点)

4 感謝状の贈呈

多額または価値の高い資料を提供した寄贈者に対し、5月15日午後10時、感謝状の贈呈が行われた。佐藤文保氏(「昆虫標本」1,727点)、吉戸直氏(歴史資料、美術工芸、民俗)、大浜道子氏(絵画、書跡12点)、安良城政効氏(歴史資料19点)



「新収蔵品展」展示略図

ロ 玉城朝薫生誕三百年記念展「琉球芸能の世紀」

会期：昭和59年6月30日（土）～7月22日（日） 会場：二階ロビー及び第三展示室

1. 趣 旨

組踊の創始者であり、沖縄近世史の中でも代表的な人物として位置づけられる玉城朝薫生誕三百年を記念する事業の一環として開催された展示会で、玉城朝薫生誕三百年記念事業会と県立博物館との共催。この展示会を通して沖縄近世史の中で玉城朝薫がいかに生き、その影響が現代にどう反映されているのかを問うとともに、トータルな意味での琉球芸能のダイナミズムとポテンシャルを再認識する場の提供を目的とした。

2. 展示内容

展示方法としては、玉城朝薫関係の遺品が比較的少ないということもあり、展示のフォーカスは彼が生きてきた社会背景を中心に構成することにした。第3室は玉城朝薫関係資料、冊封使、江戸上り、楽器、組踊写本等で構成し、二階ロビーでは三味線や中国楽器、組踊関係の衣裳や小道具及び写真パネルを展示した。

3. 展示品目録

<書跡>

玉城朝薫生誕の地碑（拓本・崎間麗進氏蔵）、玉城朝薫二百年祭記念碑（拓本・同）、玉城朝嘉筆「海月」（拓本・同）、徐葆光筆「中山第一」（拓本）、林鴻年筆「源遠流長」（拓本）、全魁筆「題円覚寺」（拓本）、周煌筆「聯」、李鼎元筆「聯」、徐葆光筆「五言律詩・二首」、浦添朝薫筆「山家松」（和歌）、毛維藩筆「対句」、毛徳昌筆「対句」、馬文英筆「対句」

<絵画>

北京駐在琉球通事鄭和橋肖像画、渡閩航海図、政演筆「楽童子の図」、楽童子の図（他四点）、楽童子の図（三点・大城清孝氏蔵）、三味線の図、美人弾琴図、杉谷行直筆「舞楽図」（卷子）、朱霍年筆「奉使琉球図」（卷子）、冊封使行列図（卷子）、江戸上り行列図（卷子）、琉球人座楽並に踊之図（卷子）

<歴史資料>

向姓家譜（辺土名朝助氏蔵）、「海表恭藩」（印章）、明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書、冠船之時御座構之図、冠船之時御道具之図、屋嘉比工工四（琉球大学蔵）、野村風工工四、知念續高工工四、湛水流工工四、琴工工四（琉球大学蔵）、太鼓段笛並び鼓大小太鼓打合段（同）、今帰仁御殿本組踊集（県立図書館蔵）、八重山歌節組（琉球大学蔵）、高那敵打（大宜味村字松田公民館蔵）、本部大主（同）、躍狂言並に組踊番組（東永一蔵氏）、伊祖の子組（八重山博物館蔵）、久志の若按司（同）、北山落城敵打（糸洲正二氏蔵）、組踊集（八重山博物館蔵）、手水の緑（多良間村）、忠臣仲宗根豊見親組（同）、多田名組（同）、忠孝婦人村原組（同）、忠臣組（同）、語学教材（琉球大学）、中山伝言録、万寿寺梵鐘

<楽器>

古箏「楓」(伊礼千絵子氏蔵)、古箏「緑」(糸洲朝薫氏蔵)、三味線盛島開鐘、三味線志多伯開鐘(金城紀光氏蔵)、三味線江戸与那、中国三味線、胡弓、笛<3本>(大浜長栄氏蔵)、笛(嘉数世勲氏蔵)、明笛(大浜長栄氏蔵)、御白太鼓、パーランクー、スイシン(新心)<2点>

<紅型・織物>

木綿・染文地山波菊菖蒲椿柴垣文様衣裳、芭蕉布・波に月鶴文様陣羽織、木綿・読谷山花織陣羽織

<パネル>

琉球中山王使者絵図(カラー)、琉球中山王使者絵図(白黒)、玉城朝薫筆の和歌(複写)、楽器パネル、「執心鐘入」写真パネル<3枚>

<その他>

「執心鐘入」鬼女の面・衣裳、「執心鐘入」小道具(手燭・鉄丁)

<舞台衣裳>(ロビー展示)

黒朝、老人衣裳<3点>、帯<2点>、「執心鐘入」座主衣裳<紫縮緬衣・裳・金欄けさ>、「二童敵打」阿麻和利衣裳<縮緬衣裳・陣羽織>、羽衣衣裳、胴衣、「中城落城」護佐丸陣羽織

<小道具>(ロビー展示)

「執心鐘入」座主頭巾・数珠・末広、「二童敵打」阿麻和利金入錦の頭巾・大団・脇差・大刀・酒具・きょうちゃこ、万才笠と杖、「老人踊」白の作りひげ・金入り緞子丸頭巾、「銘苅子」羽衣・羽衣冠・醜童面

<楽器>(ロビー展示)

三味線<各型8挺・牛骨製・ジュラルミン製・人工皮革張り・カンカラー三味線・セメント袋張り>、中国楽器<揚琴・琵琶・月琴・胡琴・京琴・肖内・三弦(2点)・横笛>、日本三味線、大太鼓、締太鼓

* 以上の衣裳・小道具・楽器は真境名由利子、玉城秀子、平田行正、上間郁子、又吉真栄、佐藤太圭子、玉城節子、喜名盛昭、玉城靖文、棚原靖子、中島とみ子の各氏所蔵のものと伝統組踊保存会所蔵のものを借用した。

<資料>

『琉球典工工四』、『琉球楽箏曲工工四』(上・中・下)、『琉球浄瑠璃』(松山得十郎著)、『琉球戯曲集』(伊波普猷著)、『玉城朝薫作 組踊五番』(玉城朝薫二百年祭記念出版)、新聞切り抜き帳、

<カラーパネル>

組踊五番(「二童敵打」「女物狂」「銘苅子」「執心鐘入」「孝行の巻」)

<その他>

紅型舞台幕

4. 文化講座

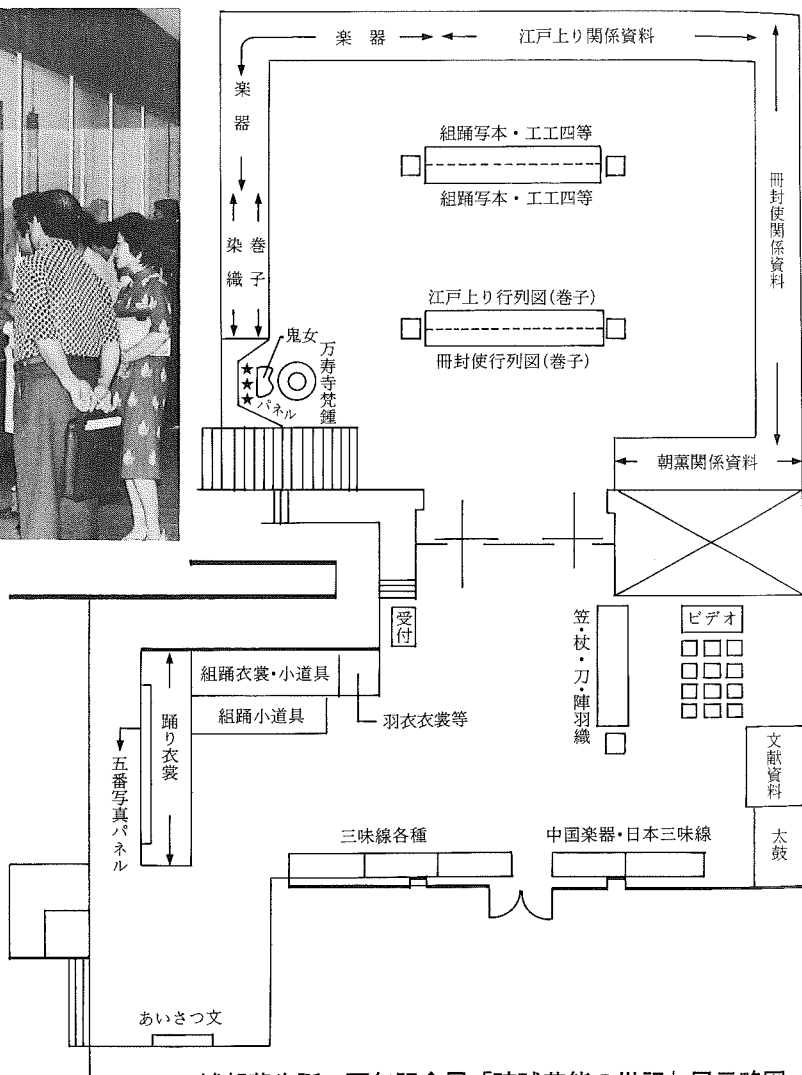
「琉球芸能の世紀」展示解説会 昭和59年7月14日(土)

講師：池宮 正治(琉球大学教授)

* 講座は、最初に博物館講堂で玉城朝薫に関する若干の説明と展示物の見方についてレクチャーしたあと、池宮氏と比嘉悦子氏により展示物の解説がなされた。

5. その他

印刷物：図録「玉城朝薫生誕三百年記念・琉球芸能の世紀」(玉城朝薫生誕三百年記念事業会発行) < B 5 版 114 ページ >



玉城朝薫生誕三百年記念展「琉球芸能の世紀」展示略図

ハ 沖縄のシダ・貝・昆虫標本展

会期：昭和59年7月31日（火）－9月2日（日）

会場：二階ロビー

1 趣 旨

夏休みの子供たちの自主学習の参考になるように、当館が所蔵する沖縄産のシダ・貝・昆虫の標本約 2,000種 4,000点を展示した。

2 展示内容

A 標本

〔1〕 沖縄産のシダ植物標本

約 175 種

〔2〕 沖縄産の貝標本

約 750 種

〔3〕 沖縄産の昆虫標本

約 1,000 種

B 生態写真

約 200 点

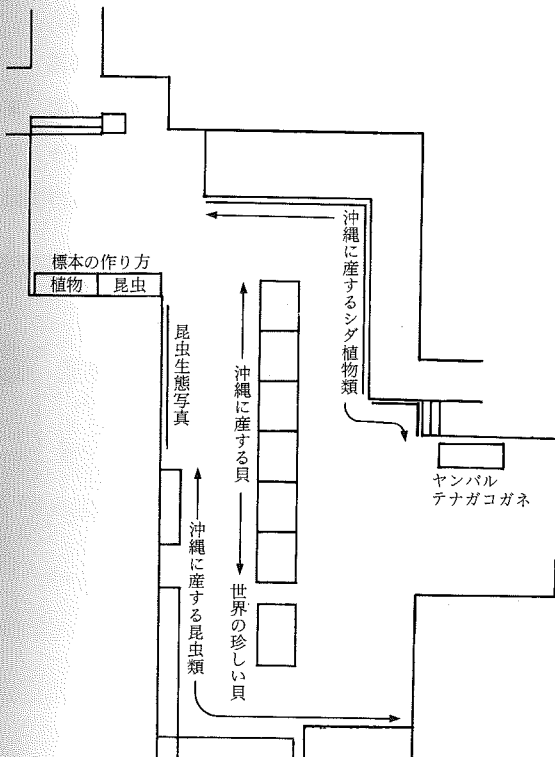
3 文化講座

「昆虫教室」 昭和59年7月28日（土）・7月29日（日）

「標本鑑定会」 昭和59年8月26日（日）（教育普及の項を参照）

4 備 考

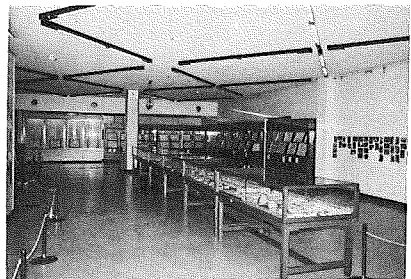
展示に際し、豊見山 元・比嘉清文・仲嶺博富・金城政勝・佐藤文保・岩附信紀・比嘉正一・東 清二（敬称略）他多くの方々にお世話になりました。御礼を申し上げます。



「沖縄のシダ・貝・昆虫標本展」展示概略図



展示場内



展示場内

ニ 今帰仁グスク展

会期：昭和59年10月16日（火）～10月28日（日） 会場：二階ロビー

1 趣 旨

今帰仁グスクは、昭和55年度から今帰仁教育委員会によって、発掘調査が実施された。その結果、志慶真門郭内の建物跡、城門から主郭へ通ずる石敷道、主郭の建物基壇など重要な遺構の検出と、中国・朝鮮・タイ・ベトナム・日本とその周辺諸国との交易によってもたらされた多くの遺物が出土するなどの成果を上げてきた。

今回の今帰仁グスク展は過去3年間にわたる今帰仁の発掘調査の成果を広く県民に公開しこれを通して、文化財の保護と活用について、多くの人の理解を深めることを目的とした。

2 展示内容

今帰仁グスク志慶真門郭内から出土した陶磁器・古い古銭・鉄製品・武器武具など三百点余と発掘調査で検出された遺構の写真パネルや約三十点を展示した。

3 展示品目録

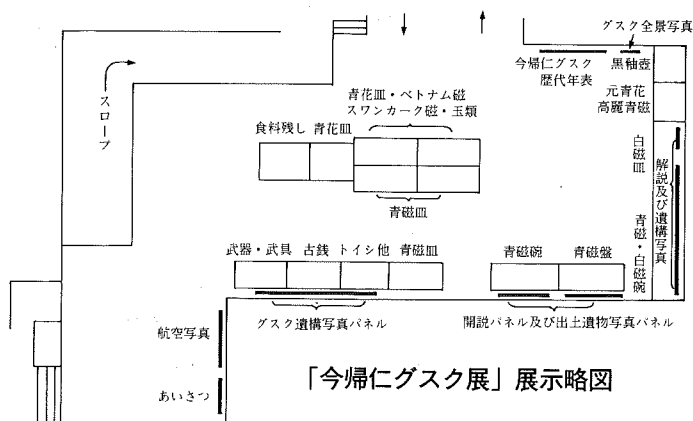
青磁（碗23個）（復元品）・皿19個（復元品）・盤5個（復元品）・杯2個（復元品）香炉1個、仏片1個、白磁（鉢2個・碗2個・皿10個・杯4個）、元青花（壺1個・破片16個）、明青花（皿5個・碗10個・杯10個）、ルリ釉3片、ヒスイ釉3片、三彩3片、緑釉3片、黒釉陶器（碗1個・壺1個）、褐釉陶器（壺1個）、鉄製品（武器40個・ハサミ1個・鉄釘5個）、石器（トイシ4個）、須恵器片2個、おはじき31個、玉ヒモ付3本、玉類15個、古銭30個、その他（食料残滓・炭化米・牛骨・イノシシ骨・魚骨・写真パネル）

4 文化講座

「史跡めぐり」昭和59年10月21日（日）

講師 金武正紀（教育庁文化課主任専門員）

※講座は展示解説と今帰仁グスク発掘現場を中心とした史跡めぐりを行った。



「今帰仁グスク展」展示略図



ホ 紅型衣裳と型紙展

会期：昭和60年2月26日（火）～3月10日（日） 会場：二階ロビー及び第三展示室

1 趣 旨

当博物館に所蔵されている紅型衣裳と型紙を一堂にあつめて、紅型の技術の確かさを広く県民に紹介するとともに伝統工芸に対する意識の高揚と普及をはかることを目的とする。

2 展示内容

展示は2階ロビーに復元した型紙と実際に染めた見本を中心に、その行程を写したカラー・パネル、諸道具、顔料などを展示し紅型ができあがるまでの行程をわかりやすくし、また、同ロビーには当博物館所蔵の紅型型紙をできるだけ多く展示し、紅型の変化にとんだ文様を紹介した。第三展示室では同じ文様の衣裳と型紙を中心に紅型の文様は型紙によって決定づけられることをわかりやすく展示した。

3 展示品目録

紅型衣裳：絹・稲妻に花の丸文様衣裳、木綿・飛鳥に流水蛇籠葵菖蒲文様衣裳、木綿・染分地山波に鶴松竹梅文様子供着、木綿・染分地山波菊菖蒲椿柴垣文様衣裳、木綿・霞に枝垂桜文様衣裳、麻・笠に藤流水竹蛇籠葵菖蒲文様衣裳（沖縄県立図書館蔵）他19点

型紙：白地霞に枝垂桜文様、白地笠に藤文様、染地桐に牡丹文様、染地垣根に牡丹文様、染地雪輪に鶴松竹梅文様、簾地縞に鳶の葉模様、他 170点

4 文化講座

「紅型の世界」 昭和60年3月2日（土）

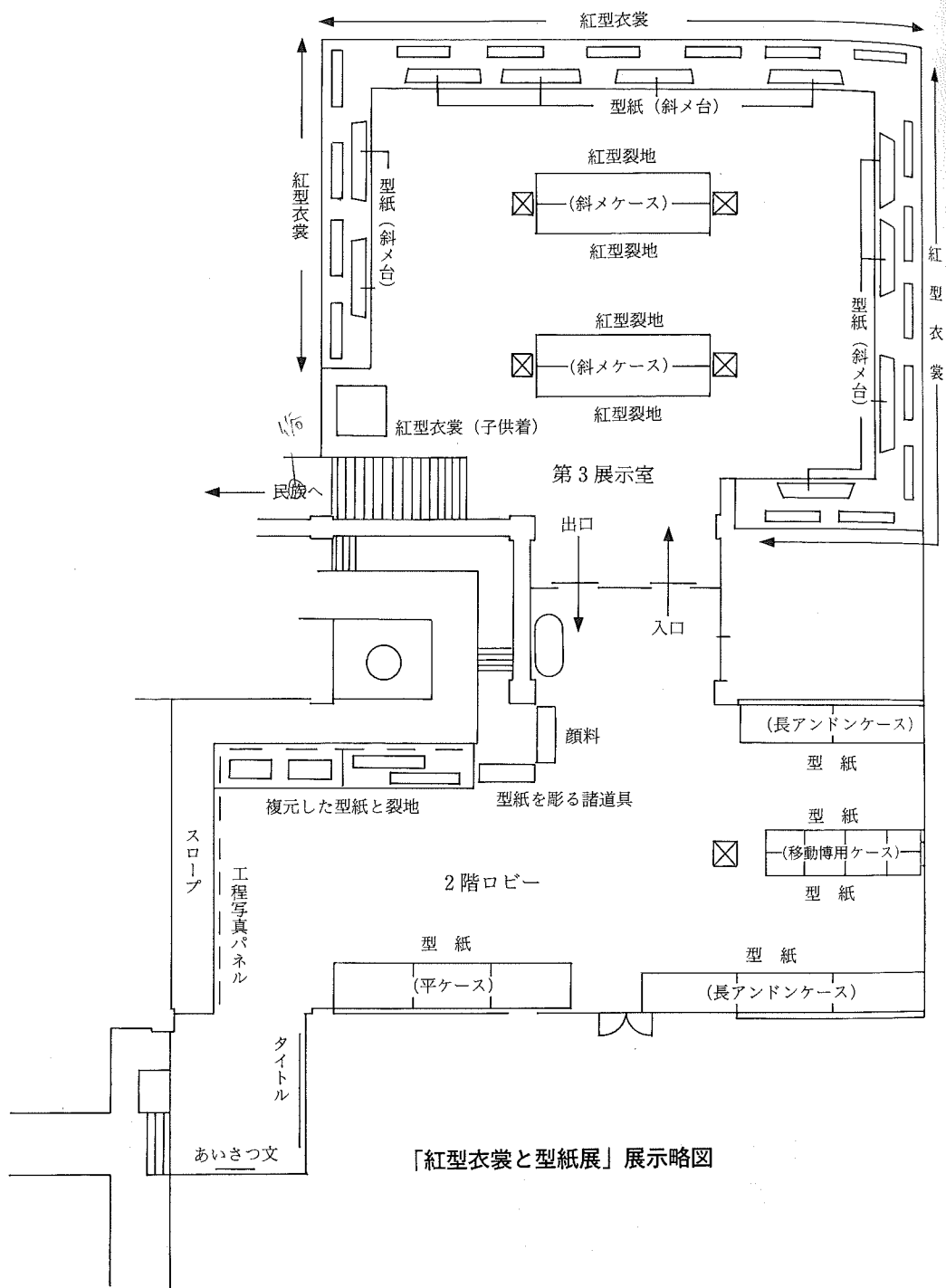
講師：渡名喜 明（教育庁文化課専門員）

※ 講座は途中から展示会場へ移動し展示物を観覧しながら行われた。

5 その他

印刷物：図録「紅型衣裳と型紙」B5版71ページ 1,000部





(3) 移動博物館

第8回「移動博物館」

会期：昭和59年11月1日（木）－11月4日（日）

午前9時－午後5時

会場：石垣市立八重山博物館

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・石垣市立八重山博物館・石垣市教育委員会・石垣市

後援：竹富町教育委員会・与那国町教育委員会

協賛：琉球海運・南西航空・中央倉庫梱包

1 趣 旨

以前、当館にて催された「大恐竜展」は、多くの県民に利用された。しかしながら、八重山郡の県民、特に児童生徒は距離的に遠く離れているということで見学にいきたくともそれができなかった。移動博物館は、県立博物館の利用が困難な地域へのサービスを目的とする。第6回までの「移動博物館」では、地質・生物・考古・民俗・美術工芸、写真パネル等、いわゆる総合博物館としての資料をそのまま遠隔地まで運び展示するというものであったが、前述の実情もあって、第7回の宮古平良市に続いて第8回も恐竜を中心とする特別な展示の内容になった。

2 展 示

恐竜を中心とする先カンブリア時代から新生代までの古生物

3 講演会

日時：昭和59年11月2日（金） 午後7時－9時

場所：沖縄県八重山職員会館

講師：大城立裕（沖縄県立博物館長）

演題：沖縄文化の特質

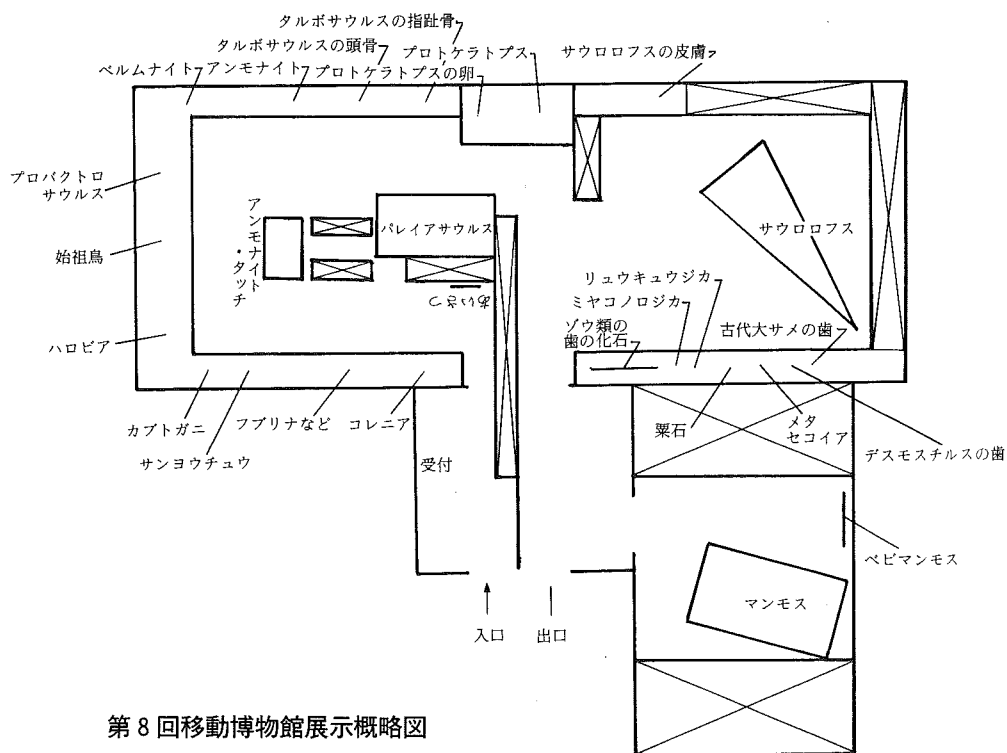
*講演の前に戦前の沖縄「琉球の風物」・「琉球の民芸」をビデオで上映

4 入場者

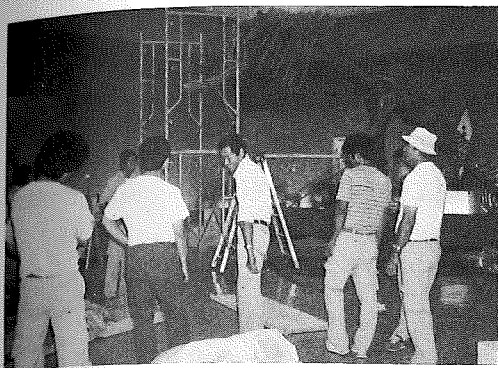
	小 人	大 人	団 体	合 計
11月1日（木）	669	321	146	1,136
11月2日（金）	727	450	1,065	2,242
11月3日（土）	3,283	1,771	—	5,054
11月4日（日）	3,273	2,373	—	5,646
総計				14,078人

5 展示資料目録

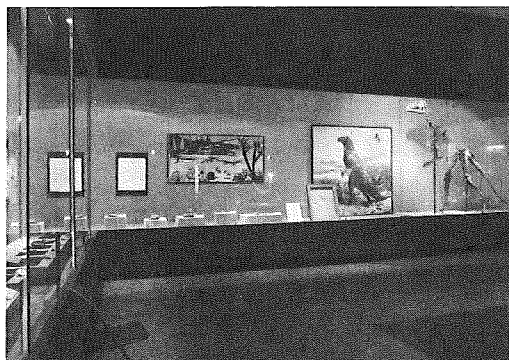
コレニア (2点) サンヨウチュウ (6) カブトガニ (2) 腕足貝 (2) ウミムリ、四放サンゴ 封印木 フズリナ (2) パレイアサウルスの全身骨格 ハロピア ベルムナイト (2) 棒状アンモナイト ダクティリイオセタス・テヌイコスタータム (3) ダクティリイオセタス・アスレティキウム ハチリセラス・パタゴネンセ プラセン、ティセラス・メーキ アカントスカフィテス・ノドーサス ジュバビーテス・ケーリー、ハンナオセラス・ヘンセリー アリエトセルティテス・アリエティトオイデス ハイフォントセラス・オシマイ ポリプティコセラス・サブコードラータム アナパキディスカスの仲間 オウムガイ (2) オウムガイの化石 (2) モノティス 魚の化石 (4) シダの化石 恐竜の卵の化石 プロバクトロサウルスの全身骨格 始祖鳥 タルボサウルスの頭骨 タルボサウルスの指趾骨 プロトケラトプスの全身骨格 プロトケラトプスの卵 サウロロフスの全身骨格 サウロロフスの皮膚の化石 ウニの化石 二枚貝の化石 デスモスチルスの歯 古代サメの歯 (3) アオザメの歯 珪化木 メタセコイアの化石 (2) 現存するメタセコイア トリロホドンゾウの歯 ナウマンゾウの歯 (2) インドゾウの歯 ベビーマンモス マンモスの歯 (2) マンモスの毛 クジラの化石 栗石 石灰藻 リュウキュウジカの全身骨格 リュウキュウジカの雄の角 石灰岩中のリュウキュウジカ ミヤコノロジカ 貝の化石



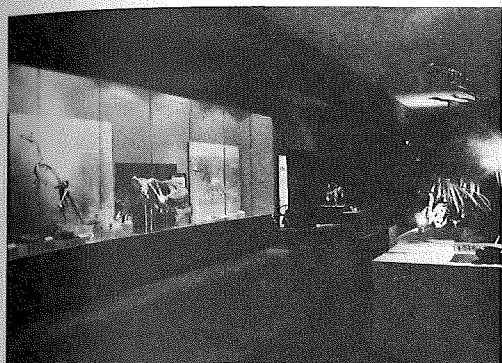
第8回移動博物館展示概略図



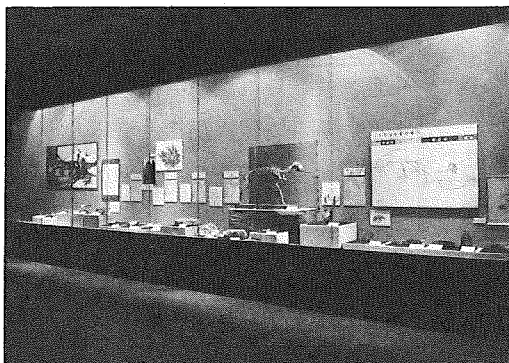
恐竜の組立



展示会場内



展示会場内



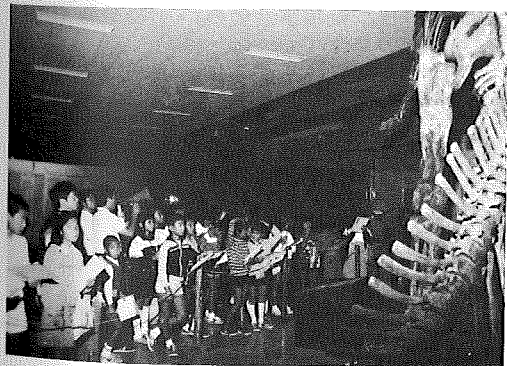
展示会場内



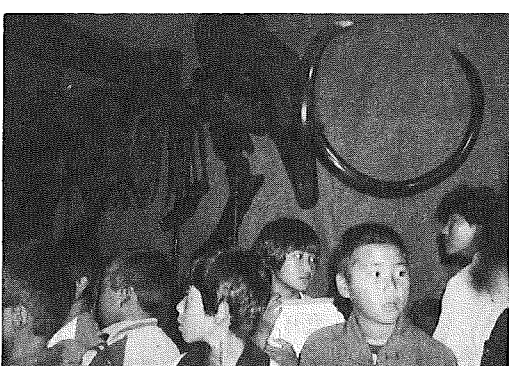
開館式



講演会



観 覧



観 覧

(4) 教育普及

1 博物館文化講座 (昭和59年4月～昭和60年3月)

公演会形式が主体となっていた従来の博物館文化講座を改めて、今回から収蔵品の解説や体験学習を主体とするものになった。昭和59年度はその最初の試みになっている。

時間：午後2：30～4：30

場所：博物館講堂

第 117 回 「三味線解説会」 4月28日(土)

講師：又吉真三(県文化財保護審議委員) 参加者：25名

第 118 回 「絵画解説回」 6月9日(土)

講師：神山泰治(琉球大学助教授)・真栄平房敬(那覇市文化財調査審議委員)
参加者：28名

第 119 回 「琉球芸能の世紀」展示解説会 7月14日(土)

講師：池宮正治(琉球大学教授) 参加者28名

第 120 回 「昆虫教室」 7月28日(土) 午前9：00～10：30 (小学校3,4年) 野外実習

午前10：30～12：00(小学校5年以上) 野外実習

7月29日(日) 午前9：00～10：30 (小学校3,4年) 標本づくり

午前10：30～12：00(小学校5年以上) 標本づくり

講師：長嶺邦雄・比嘉正一・佐藤文保・岩附信紀・上杉兼司・堀 茂久(沖縄昆虫同好会会員)

場所：那覇市末吉公園(野外実習)・沖縄県立博物館講堂 参加者：98名

第 121 回 「陶芸教室」 8月4日(土) 午後 2：00～3：30 成形(博物館講堂)

8月16日(木) 午前 10：00～12：00 釉掛け(宮城陶房)

講師：宮城勝臣(陶芸家) 参加者：60名

第 122 回 「拓本教室」 8月25日(土)

講師：崎間麗進(文化財修理技術者協会理事)・上江洲敏夫(県立博物館学芸員) 参加者：15名

第 123 回 「標本鑑定会」 8月26日(日)

講師：大城逸朗(県立教育センター指導主事)・高良拓夫(南風原高校教諭)
豊見山 元(具志川高校教諭)・平田義浩(日本貝類学会会員)・金城政勝(琉球大学助手)・当山昌直(県立博物館学芸員)

第 124 回 「民具教室」 8月26日(日) 午後1：00～5：00

講師：上江洲均(県立博物館学芸員) 参加者21組(70名)

第 125 回 「昆虫解説会」 9月29日(土)

講師：東 清二(琉球大学教授) 参加者：13名

第 126 回 「史跡めぐり」 10月21日(日) 午前9：00～午後6：00

講師：金武正紀(教育庁文化課主任専門員) 参加者：28名

場所：沖縄県立博物館～今帰仁城跡 参加者：50名

第 127 回 「石碑めぐり」11月18日（日）午前9：00～午後1：00

講師：崎間麗進（県文化財保護審議会専門委員）

場所：那覇市首里一帯 参加者：25名

第 128 回 「民具教室」11月25日（日）午後1：00～5：00「都合によりとりやめ」

第 129 回 「貝塚時代の土器」解説会 12月8日（日）

講師：知念 勇（県立博物館学芸員） 参加者：29名

第 130 回 「紅型の世界」3月2日（土）

講師：渡名喜 明（教育庁文化課専門員） 参加者：31名

(5) 資料貸出

① 考古資料：「荻堂式土器」2点

期間：昭和59年5月12日～昭和60年3月31日 名称：日本文化のあけぼの

主催：国立歴史民俗博物館

会場：同 館

② 民俗資料：古民具100点

期間：昭和59年5月15日～7月16日 名称：沖縄展「生活の智慧と古民具展」

主催：西武百貨店

会場：同百貨店特設会場

③ 歴史資料：石獅子・金工品7点

期間：昭和59年10月9日～昭和61年10月4日 名称：常設展示

主催：県立平和記念資料館

会場：同 館

④ 美術工芸・歴史資料・民俗資料・考古資料等74点

期間：昭和59年11月12日～12月13日

名称：特別展「琉球の大交易」

主催：県立海洋博記念資料館

会場：同 館

⑤ 琉球切手原画：「ユーナ（花）」ほか10点

期間：昭和59年11月22日～11月26日

名称：1984年琉球切手展

主催：沖縄郵政連盟

会場：那覇東郵便局

⑥ 歴史資料：園比屋武御嶽棟石ほか4点

期間：昭和59年12月1日～昭和60年12月28日 名称：同御嶽保存修理のため

主催：那覇市教育委員会

⑦ 考古資料：「大山貝塚出土復元土器」ほか2点

期間：昭和60年3月16日～3月18日

名称：文化財展

主催：宜野湾市教育委員会

会場：同市中央公民館

(6) 燻 蒸

当博物館では資料の保存をはかる上で、例年定期的に年2回の燻蒸を行っている。昭和59年度の第1回目は、6月18日～24日に行い、1階収蔵庫・地下収蔵庫・自然展示室をメチルプロマイドで燻蒸し、展示室・講堂・事務室はスミチオン酸煙霧による害虫駆除を行ったが、自然展示室は今回が初めてである。2回目は2月18日～26日に1階及び地下収蔵庫の燻蒸、展示室その他を煙霧による害虫駆除を行った。

(7) 調査・研究

本年度（昭和59年4月～昭和60年3月）の各担当職員の調査研究等の活動状況は、以下の通りである。

1 調査研究

宜保榮治郎（副館長）

沖縄諸島の民俗芸能調査

期 間：昭和59年4月1日～昭和60年3月31日

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

目 的：国庫補助事業による調査で、県内の民俗芸能の分布状況を掌握すること

内 容：沖縄諸島の北部地方、主として名護市を中心とする地域の調査を行った。主に同地域で旧暦8月15日夜の前に行われる「村遊び」の概要、組織、次第、伝播の経緯を調査、特に今まで調査報告の無かった屋我地地区を重点的に行った。

結 果：屋我地地区については、「沖縄県文化財調査報告書第71集 沖縄諸島（中部・北部）の民俗芸能」にまとめ、昭和60年3月に刊行。

沖縄の盆行事調査

期 間：昭和59年8月8日～12日

依頼機関：韓国民俗調査団（団長・仁川大学教授崔仁鶴）

目 的：韓国の民俗学者が沖縄の盆行事を調査することにより、両国の基層文化の共通点と信仰の差異を明らかにする。

内 容：1 盆の精霊迎えと送り調査（崎間麗進氏宅・那覇市）
2 盆の綱引き調査（東風平町字小城）

沖縄舞踊技法の研究

期 間：昭和60年2月2日～7日 3月2日～3月5日

依頼機関：国立文化財調査研究所

目 的：東アジア文化圏から見た沖縄舞踊の技法をとらえること

内 容：沖縄の古典舞踊の長老6名と面接し実演してもらった。演目は古典舞踊の女踊としては諸屯、伊野波節、二才踊りは上り、下り、高平良、雑踊りとしては、花風、浜千鳥、加那ヨー、鳩間節を材料にした。

結 果：この調査は二年連続の調査で今年はその初年である

上江洲 均（学芸係長）

沖縄県の民俗資料（民具）目録作成調査

期 間：昭和59年9月～昭和60年3月

目 的：国庫補助事業で県下の博物館・資料館の民俗資料（民具）を調査、分類し、目録を作成し、配布することにより、生涯教育の推進をはかり、効果的な学習に結ぶことを目的とする。

協 力：内原節子（石垣市立八重山博物館学芸員）、各博物館・資料館職員、当館学芸員

内 容：調査は、寸法・収集地・用途・製作法などについてカードに記録し、撮影

調査施設：①名護博物館②沖縄県立海洋博記念沖縄館③伊是名村教育委員会資料室④読谷村立歴史民俗資料館⑤諸見民芸館⑥沖縄県立博物館⑦渡名喜村立歴史民俗資料館⑧平良市立歴史民俗資料館⑨上野村農業資料館⑩城辺町教育委員会資料室⑪多良間村立歴史民俗資料館⑫石垣市立八重山博物館⑬八重山琉染⑭喜宝院蒐集館⑮西表国立公園黒島ビジターセンター⑯与那国民俗資料館

結 果：昭和60年3月「沖縄県の民俗資料（民具）目録の題で報告書が作成され、県下の各学校、図書館、教育委員会等へ配布。

「沖縄諸島の民俗芸能」調査

期 間：昭和59年6月1日～昭和60年3月30日

依頼機関：沖縄県教育庁文化課

目 的：国庫補助事業による調査で、県内の民俗芸能の分布状況を掌握すること

内 容：今回は沖縄諸島中部・北部が対象で、「伊平屋村の民俗芸能」を調査し、報告を行った。

結 果：「沖縄県文化財調査報告書第71集 沖縄諸島（中部・北部）の民俗芸能」として、昭和60年3月に刊行。

知念 勇（教育普及係長）

北谷グスクの発掘調査

期 間：昭和59年10月22日～11月20日

依頼機関：北谷町教育委員会

内 容：昭和59年度の第1次発掘調査に引き続き第2次発掘調査を実施した。

北谷グスク、この部を主体に発掘された。石敷建物遺構、フェンサ下層式土器の遺物包含層の確認とその上層に、14世紀を主体とした遺物包含層があり、その分布はにの確認等を行った。

結 果：昭和60年度に報告書刊行の予定。

「大グスク展」開催に伴う準備調査

期 間：昭和59年6月～3月

内 容：奄美諸島、沖縄諸島のグスクの表面調査、遺構の写真撮影、遺物採集、文献等の調査を実施した。

調 査 地：今帰仁グスク、北谷グスク、勝連グスク、垣花グスク、伊計グスク、玉グスク、具志川グスク、辺留グスク、伊津部勝グスク、赤木名グスク

上江洲敏夫（学芸員）

石碑調査

期 間：昭和59年4月～昭和60年2月

内 容：昨年に引き続き教育庁文化課の金石文遺品調査と当館の資料収集の一環として実施したものである。石碑の採拓を主たる目的とし、あわせて被拓物の実測、写真撮影等を行なった。収蔵拓本は下記の通りである。

被 拓 物：比謝橋碑 佐阿天橋碑（表面のみ） 飯森墓碑（両面） えすあんじ墓碑 大門森の上の碑文（両面） 大門森の下の方碑文 当蔵村字阿丹称川嶽碑（両面） 重修天女橋碑 唐人墓碑 飛泉漱玉（「漱玉」のみ） 板敷橋碑（片面のみ）

結 果：調査した一部については『沖縄県立博物館紀要』第11号に「石碑概観—県内の石碑採拓を通して—」として集録した。

玉城朝薫の墓調査

期 間：昭和59年12月16日（日）

調査場所：浦添市字前田

参 加 者：大城立裕 池宮正治 崎間麗進 又吉真三 大城学 朝薫の子孫 その他

内 容：昭和59年は玉城朝薫が生まれて三百年にあたるということで、その生誕を記念する諸行事が行われ、朝薫年のフィナーレを飾ったのが朝薫墓の確認であった。朝薫の厨子甕は三基の一つで、蓋の裏に「玉城親方朝薫 雍正十二年甲寅正月廿六日卒 享年五十一 號能達 □□（乾隆）十年乙丑二月十五日洗骨」と墨書してあるのが確認された。これは『尚姓家譜』（辺土名家）の記事と一致するが、彼の遺骨がいつ移葬されたのか判明せず、今後に大きな問題を残すことになった。

2 著作・論文

宜保榮治郎（副館長）

- 「組踊・孝行の巻」『青い海 132号』青い海出版社（1984年6月）
- 「芸能」『宜野湾市史五 資料編四 第九章』宜野湾市史編集室（1960年3月）
- 「諺・謎々（ムヌアカシエー）」『宜野湾市史五』宜野湾市史編集委員会（1960年3月）
- 「名護市の民俗芸能」『沖縄県文化財調査報告書第71集 沖縄諸島（中部・北部）の民俗芸能』沖縄県教育委員会（1985年3月）

上江洲均（学芸係長）

- 「久米島—ふるさと再見」『あるく・みる・きく』日本観光文化研究所（1984年7月）
- 「年中行事」（共同執筆）『宜野湾市史五』宜野湾市史編集委員会（1985年3月）
- 『沖縄県の民俗資料（民具）目録』沖縄県立博物館（1985年3月）
- 「徳之島聞書」『沖縄県立博物館紀要』第11号、沖縄県立博物館（1985年3月）
- 「伊平屋村の民俗芸能」『沖縄県文化財調査報告書第71集 沖縄諸島（中部・北部）の民俗芸能』沖縄県教育委員会（1985年3月）

知念 勇 (教育普及係長)

- 「具志川島出土の奄美系土器」『地域と文化・第29・30合併号』南西印刷出版部・ひるぎ社 (1985年 3月15日)

- 「多和田真淳調査収集の考古資料-IV」『沖縄県立博物館紀要』第11号、沖縄県立博物館 (1985年 3月)

上江洲敏夫 (学芸員)

- 「『四本堂家礼』と沖縄民俗——葬礼・喪礼について——」『民俗学研究紀要』第8集、成城大学民俗学研究所 (1984年 3月)

- 「石碑概観——県内の石碑採拓を通して——」『沖縄県立博物館紀要』第11号、沖縄県立博物館 (1985年 3月)

当山昌直 (学芸員)

- 「パーソナルコンピュータによる博物館資料の整理の試み」『沖縄県立博物館紀要』第11号、沖縄県立博物館 (1985年 3月)

津波古 聡 (充指導主事)

- 「紅型型紙」『図録・企画展 紅型衣裳と型紙』(1985年 2月)

- 「絵画三題一般元良・查丕烈・孫億一」『沖縄県立博物館紀要』第11号、沖縄県立博物館 (1985年 3月)

与那嶺一子 (学芸員補)

- 「紅型の歴史」『図録・企画展 紅型衣裳と紙型』(1985年 2月)

(8) 刊行物

刊行物名	種類	発行部数	規格：頁数	内 容
「新収蔵品展」図録	不定期	1,000	B 5 : 8	新収蔵品を紹介する図録
沖縄県立博物館年報No17	定 期	500	B 5 : 50	前年度の当館の活動状況報告
博物館だよりNo21	定 期	1,000	B 5 : 4	当館活動の近況報告
「今帰仁グスク展」図録	不定期	1,000	B 5 : 27	企画展の資料を紹介した図録
第9回移動博物館	不定期	30,000	B 5 : 4	展示を紹介したリーフレット
博物館だよりNo22	定 期	1,000	B 5 : 4	当館活動の近況報告
「紅型衣裳と型紙展」図録	不定期	1,000	B 5 : 71	企画展の資料を紹介した図録
沖縄県立博物館紀要No11	定 期	1,000	B 5 : 64	当館学芸員の調査研究報告
博物館だよりNo23	定 期	4,000	B 5 : 4	当館活動の近況報告
沖縄県の民俗資料(民具)目録	不定期	1,000	B 5 : 180	民具調査の成果をまとめた図
ポスター	定 期	1,000	半 切	次年度の当館行事案内

入館者数

(1) 入館者数 (昭和59年 4月 1日～昭和60年 3月31日)

月別入館者数 (常設展)

	個 人				団 体				總 計				開館 日数	1日 平均
	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計		
59年 4月	(23) 3,940	201	499	(23) 4,640	(109) 1,621	780	643	(109) 3,044	(132) 5,561	981	1,142	(32) 7,684	24	321
5月	(20) 3,950	(6) 110	319	(26) 4,379	(201) 1,269	625	(8) 1,851	(209) 3,745	(221) 5,219	(6) 735	(8) 2,170	(235) 8,124	25	325
6月	(18) 1,900	68	196	(18) 2,164	(150) 1,059	834	(32) 571	(182) 2,464	(168) 2,959	(32) 902	(200) 767	(4628) 4,628	16	289
7月	(26) 5,550	669	888	(26) 7,117	(139) 844	515	(139) 415	(165) 1,774	(151) 6,404	1,184	1,303	(165) 8,891	26	342
8月	(14) 7,080	989	2,888	(14) 10,957	(208) 243	124	(13) 640	(221) 1,007	(222) 7,323	1,113	3,528	(13) 11,964	26	460
9月	(18) 2,740	302	260	(18) 3,302	(61) 87	333	(14) 7	(75) 427	(79) 2,827	(14) 635	(93) 2,729	(532) 3,729	25	149
10月	(25) 4,010	77	289	(25) 4,376	(486) 1,111	1,659	(21) 3,146	(507) 5,916	(511) 5,121	(21) 1,736	(532) 3,435	(609) 10,292	25	412
11月	(43) 5,820	111	611	(43) 6,542	(411) 2,334	1,526	(155) 5,163	(566) 9,023	(454) 8,154	1,637	5,774	(155) 15,565	25	623
12月	(6) 2,260	211	311	(6) 2,782	(270) 959	4,905	(270) 135	(276) 5,999	(276) 3,219	5,116	446	(276) 8,781	22	399
60年 1月	(8) 3,113	289	361	(8) 3,763	(80) 1,813	44	(73) 363	(153) 2,220	(88) 4,926	333	724	(161) 5,983	23	261
2月	(17) 3,237	137	278	(17) 3,652	(350) 2,522	73	(79) 471	(429) 3,066	(367) 5,759	210	749	(446) 6,718	17	396
3月	(218) 7,042	(6) 1,196	881	(224) 9,119	(2,564) 3,623	5,942	(434) 809	(2,998) 10,374	(2,782) 10,665	(6) 7,138	(434) 1,690	(11,852) 19,493	26	750
計	50,652	4,360	7,781	62,793	17,485	17,360	14,214	49,059	68,137	21,720	21,995	111,852	280	400

() 内は無料扱い

曜日別入館者数 (常設展)

	個 人				団 体				總 計				開館 日数	1日平均			
	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計		個 人	団 体	計	
火	6,890	635	1,049	8,574	1,551	1,816	3,091	6,458	8,441	2,451	4,140	15,032	47	183	138	320	
水	7,663	722	1,026	9,411	2,426	3,034	3,475	8,935	10,089	3,756	4,501	18,346	47	201	191	391	
木	8,084	630	939	9,653	2,614	3,092	2,471	8,177	10,698	3,722	3,410	17,830	45	215	182	397	
金	7,873	692	888	9,453	2,910	4,074	3,178	10,162	10,783	4,766	4,066	19,615	46	206	221	436	
土	8,733	902	1,334	10,969	3,690	3,404	1,325	8,419	12,423	4,306	2,659	19,388	47	234	180	413	
日	11,409	779	2,545	14,733	4,294	1,940	674	6,908	15,703	2,719	3,219	21,641	48	307	144	451	
計	50,652	4,360	7,781	62,793	17,485	17,360	14,214	49,059	68,137	21,720	21,995	111,852	280	225	176	400	

団体入館者数 (常設展)

	県内								県外								国外								総計	
	大人		高大生		小中生		計		大人		高大生		小中生		計		大人		高大生		小中生		計			
年月	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員
59年 4月	5	181	1	29	3	532	9	742	45	1,347	4	751	13	51	62	2,149	3	93		0	3	60	6	153	77	3,044
5	15	617	2	89	17	1,135	34	1,841	15	631	5	536	4	529	24	1,696	4	21		0	6	187	10	208	68	3,745
6	11	388	1	20	12	421	24	829	8	597	6	792	2	146	16	1,535	2	74	1	22	1	4	4	100	44	2,464
7	22	562	1	126	14	355	37	1,043	9	282	5	389	1	60	15	731	0	0		0	0	0	0	52	1,774	
8	9	101	0	12	381	21	482	5	118	3	124	4	228	12	470	1	24		0	2	31	3	55	36	1,007	
9	2	44		0	1	7	3	51	2	43	2	333	0	4	376		0		0	0	0		0	7	427	
10	5	172	1	41	25	3,059	31	3,272	27	848	7	1,618	2	87	36	2,553	2	91		0	0	2	91	69	5,916	
11	12	466	1	4	50	5,136	63	5,606	45	1,868	10	1,522	0	55	3,390		0		0	1	27	1	27	119	9,023	
12	3	112	0	2	24	5	136	25	827	17	4,856	3	14	45	5,697	1	20	2	49	4	97	7	166	57	5,999	
60年 1月	2	37	1	20	2	308	5	365	52	1,772	1	24	9	28	62	1,824	1	4		0	1	27	2	31	69	2,220
2	1	65	1	23	3	407	5	495	69	2,422	1	50	1	71	2,473	1	35		0	1	63	2	98	78	3,066	
3	7	115	4	122	7	618	18	855	91	3,504	13	5,820	25	174	129	9,498	1	4		0	1	17	2	21	149	10,374
計	94	2,860	13	474	148	12,383	255	15,717	393	14,259	74	16,815	64	1,318	531	32,392	16	366	3	71	20	513	39	950	825	49,059

(2) 沖縄県内小・中・高校博物館見学一覧(昭和59年4月1日~昭和60年3月31日)

小学校

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	13	城北小学校 228名	10	25	大岳小学校 6年 24名	11	16	羽地小学校 6年 74名
	27	南風原小学校 6年 274名			〃 豊見城小学校 3年 222名	20		普天間小学校 4年 153名
5	2	北丘小学校 113名	26		金武小学校 6年 122名	21		漢那小学校 6年 30名
		〃 与那原小学校 140名	30		美里小学校 5年 148名			〃 佐敷小学校 3年 110名
	4	与那原東小学校 135名			〃 北谷小学校 5年 90名			〃 名護小学校 6年 224名
		〃 百名小学校 56名			〃 宮良小学校 6年 25名	26		東小学校5、6年 58名
12		識名小学校 6年 5組 40名			〃 白保小学校 6年 34名	28		大宮小学校 6年 189名
17		久米島小学校 57名			〃 西崎小学校 3年 193名			〃 東江小学校 6年 185名
19		鏡原小学校 24名	31		瀬底小学校5、6年 29名	29		宇栄原小学校 3年 269名
		〃 城辺小学校 40名	11	1	嘉芸小学校 6年 41名	12	23	伊波小学校3、6年 110名
		〃 松川小学校 236名			〃 与那城小学校 6年 192名	1	29	高良小学校 290名
24		伊良部小学校 80名			〃 上本部小学校 6年 50名	2	13	城南小学校 119名
		〃 美崎小学校 50名			〃 仲泊小学校3、4年 63名	15		城西小学校 200名
		〃 恩納小学校 48名	2		塩屋小学校5、6年 24名			〃 壺屋小学校 3年 153名
		〃 久松小学校 26名			〃 屋部小学校 6年 58名	3	1	馬天小学校 6年 82名
27		下地小学校 35名			〃 瀬喜田小学校 20名	7		久茂地小学校 117名
30		中城小学校 6年 1組 31名			〃 真喜屋小学校 35名	12		石嶺小学校 198名
6	1	清水小学校 43名			〃 北玉小学校 107名	16		松島小学校 179名
		〃 中城小学校 6年 3組 31名	6		識名小学校 241名	中学校		
2		砂川小学校 6年 40名	7		天底小学校 39名			
		〃 西城小学校 6年 27名			〃 港川小学校 4年 190名	月 日 学 校 名		
6		中城小学校 6年 2組 31名			〃 室川小学校 4年 169名			
8		宮原小学校 6年 38名			〃 兼次小学校 40名	10	30	糸満中学校 350名
10		糸満小学校4、5、6年 59名			〃 松田小学校 6年 20名			〃 具志頭中学校 122名
13		狩俣小学校 6年 20名	8		天願小学校 61名	31		中城中学校 193名
30		栗国小学校 20名	9		百名小学校 57名	11	6	与勝第二中学校 90名
7	7	若狭小学校 6年 5組 40名			〃 天仁屋小学校	16		北谷中学校 258名
		〃 仲井真小学校 241名			〃 嘉陽小学校			〃 三和中学校 150名
8	23	東江小学校5、6年 26名			〃 久志小学校	22		普天間中学校 340名
10	3	諸見小学校 4年 215名			〃 勝連小学校 107名	27		桑江中学校 150名
	4	登野城小学校 6年 228名	11		久辺小学校 57名	高等学校		
	9	本部小学校 6年 145名	13		西原小学校 150名			
12		喜屋武小学校 5年 30名	14		伊是名小学校 37名	月 日 学 校 名		
17		大里北小学校 3年 63名			〃 与那原小学校 130名			
		〃 志真志小学校 4年 190名			〃 津嘉山小学校 148名	7	10	北部工業高等学校 126名
18		伊江小学校 6年 40名			〃 辺土名小学校 52名	1	19	石川高等学校 3年 20名
21		天願小学校 2年 47名			〃 平敷屋小学校 87名	2	27	石川高等学校 3年 23名
23		上田小学校 6年 245名	15		コザ小学校 146名	3	9	首里高等学校 72名
		〃 知念小学校 3年 107名			〃 牧港小学校 140名	15		首里高等学校 31名
24		伊波小学校 5年 144名			〃 古堅小学校 159名	29		辺土名高等学校 2年 19名

収蔵資料

(1) 昭和59年度収蔵資料

昭和60年3月31日現在

分 類		受 理 次 第	購 入	寄 贈	収 集	移 管 その他	小 計	総 計
自 然	地 質			5			5	25
	動 物		15	5			20	
	植 物						0	
美 術 工 芸	絵 画		2	176			178	1,266
	書 跡		4	68			72	
	彫 刻			77			77	
	陶 磁 器			857			857	
	漆 器			81			81	
	染 織			1			1	
歴 史				2,035	54		2,089	2,089
考 古				485	40		525	525
民 俗				139	1		140	140
総 計			21	3,929	95		4,045	4,045

(2) 収蔵資料現在高

昭和60年3月31日現在

分 類		受 理 次 第	購 入	寄 贈	収 集	移 管 その他	小 計	小 計
自 然	地 質		629	414	7	17	1,067	7,666
	動 物		899	4,371	467	12	5,749	
	植 物		0	850	0	0	850	
美 術 工 芸	絵 画		61	261	1	0	323	5,556
	書 跡		128	238	40	3	409	
	彫 刻		4	99	138	0	241	
	陶 磁 器		415	1,614	251	490	2,770	
	漆 器		219	201	156	0	576	
	染 織		1,036	192	9	0	1,237	
歴 史			399	3,099	334	73	3,905	3,905
考 古			4	907	547	0	1,458	1,458
民 俗			511	2,037	154	73	2,775	2,775
総 計			4,305	14,283	2,104	668	21,360	21,360

(3) 昭和59年新収蔵品目録

寄贈の部

31日現在

総 計	分 類	品 名	数量	寄贈者名	住 所
25	自 然	ニホンムカシジカのレプリカ	1	長谷川善和	逗子市
		ヒメヘビ	1	小村 悦夫	東京都
1,266		奄美諸島のトカゲ類	4	片野 茂樹	那覇市
		カニ化石・材化石	2	太田 英利	京都市
		レインボーストーン	2	當山 薫	石川市
				長嶺 将慎	那覇市
2,089	美術工芸	趙文楷書 五言絶句	1	吉戸 直	那覇市
525	書 跡	李鼎元書	1	〃	〃
140		謝花雲石書 歌大陸(四)	1	親泊 元高	〃
4,045		尚育王書 五言絶句	1	稲垣千世野	札幌市
	絵 画	査丕烈筆 牡丹の図	1	長嶺 将秀	那覇市
		貝の絵	1	稲垣千世野	札幌市
		爬龍船の図	1	〃	〃
	陶 器	焼締小壺 (八重山焼)	1	多和田真淳	那覇市
		焼締三足香炉・獅子頭	1	宜保 次郎	〃
		象乗り観音座像	2	〃	〃
		竜巻花瓶	1	島袋 常雄	〃
		南支壺	2	稲垣千世野	札幌市
	漆 器	朱漆海老海藻堆錦菓子入れ	1	〃	〃
		溜塗料紙箱	1	〃	〃
		朱漆山水楼閣人物箔絵丸櫃	1	〃	〃
5,556	染 織	絹・紺地総緋 (洋服仕立て)	1	饒平名カマド	那覇市
	歴史資料				
	古文書	孫氏家譜	1	石橋 英一	浦添市
3,905		小細工奉行発給の辞令書	5	玉城 仁用	那覇市
1,458		施姓家譜	1	佐渡川興晃	東大阪市
2,775		中山王より薩摩藩島津公宛の書簡	1	稲垣千世野	札幌市
21,360	近 代	保険証書・領収書・郵便貯金通帳	15	吉戸 直	那覇市
		台湾総督府発給の辞令	9	佐渡川興晃	東大阪市

31日現在

小 計

7,666

5,556

3,905

1,458

2,775

21,360

分 類	品 名	数量	寄贈者名	住 所
近 代	稲垣国三郎関係遺品（辞令等）	150	稲垣千世野	札幌市
	〃 （書簡等）	一括	〃	〃
	稲垣国太郎関係遺品（証書等）	21	〃	〃
	卒業証書・賞与証書	12	〃	〃
	土地売渡証文	1	宮城 雄一	那覇市
	軽便鉄道レール	2	金城敬三郎	南風原町
	天保通宝・寛永通宝	5	伊佐 真善	那覇市
	装身具 ガラス玉首飾り	2	吉戸 直	那覇市
	独逸国赤十字名誉章	1	稲垣千世野	札幌市
	勲六等瑞宝章	1	〃	〃
	拓 本 梵字碑（粟国村）	2	阿波根直孝	那覇市
	育徳泉・善淵堂（扁額）	2	崎間 麗進	〃
	甘醴延齡・勸耕台	2	又吉 真三	〃
民俗資料	石厨子・陶製厨子	2	島袋正太郎	那覇市
	マンガン掛厨子がめ	1	大城 昌夫	北中城村
	重箱入れ（重箱2コ入れ）	1	山城 由照	宜野湾市
	ウッチャキーと帯	2	安藤 和子	沖縄市
	サバニ模型	1	稲垣千世野	札幌市
	反布・モリ	2	上地 清嗣	名護市
	翁面	1	成炳禧	韓 国
	楽 器 中国楽器（三絃、明笛、筒）	3	崎間 敏勝	浦添市
	工工四	2	佐渡川興晃	東大阪市

購入の部

分 類	品 名	数量
自 然 美術工芸 書 跡 絵 画	沖縄島産及び久米島産カニ類標本	15
	林麟焔書 七言絶句	1
	齊鯤書	1
	聯 鄭元偉書	1
	枯柳水禽之図 殷元良筆	1
	牡丹小禽図 孫億筆	1

寄託の部

分 類	品 名	氏 名	住 所
民俗資料 (楽器)	古箏「楓」	屋部 公子	那覇市

収集の部

分 類	品 名	数量
歴史資料 拓 本	石田城碑文（表） 蔡氏大宗墳碑（両面） 尚豊王御代（両面） 比謝橋碑文 改決羽地川碑記（表） 南無阿彌陀仏碑 安国山樹華木之記碑 眺遠（扁額） 琉球国創建天尊廟天妃宮龍王殿関帝祀総記 円寂鉄岩西堂和尚禪師墓碑 重修天女橋碑記 当蔵村字阿丹祢川嶽碑文（両面） オランダ人墓碑（2点） 新造佐阿天橋碑文 新修美栄橋碑記（両面） 三府龍脉碑記（両面） 山北今帰仁城監守来歴碑記（両面） 玉城朝薫二百年記念碑（両面） たまおとんのひのもん（玉陵碑） 金剛山碑（表・側面） 致和（模刻） 本覚山碑文（両面） 飛泉漱石（「飛泉」のみ） 大門森の下の墓碑 大門森の上の墓碑（両面） 唐人墓碑 壺川松尾碑文 えすあんじ墓碑 飯森墓碑（両面） 琉球国新建姑米山天后宮碑記 宇座池の碑 タカングカシ池の碑（両面） 具志川間切蔵元移転碑 具志川間切小港松原之碑 泰山石敢当 源妙班氏孺人石棺銘 そのひやぶ御嶽の額の字 石底ハンナー大主碑文（表・裏・両側面） 梵字碑	54
民俗資料	ホラ貝やかん	1
考古資料	尚家上御殿跡採集の古瓦 宇瓦（赤色・灰色） 平瓦（赤色・灰色・黒色） 丸瓦片 大形平瓦（赤色・灰色） 末吉宮採集の古瓦 平瓦片（灰色） 青磁片（3）	28 12

4 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表

(1) 国指定文化財 重要文化財

昭和60年3月31日現在

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	県立博物館	沖縄県
〃	混 効 験 集	2冊		〃	〃
工 芸	銅 鐘 (旧首里城正殿前鐘)	1口	昭53. 6.15	県立博物館	沖縄県
	梵 鐘 (旧円覚寺殿前鐘)	} 3口	〃	〃	〃
	梵 鐘 (旧円覚寺殿中鐘)				
	梵 鐘 (旧円覚寺楼鐘)				

(2) 県指定文化財 有形文化財

種 号	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書	1軀1枚	昭33. 3.14	県立博物館	沖縄県
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃	〃
絵 画	絹本着色花鳥図(殷元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
	紙本着色雪中雉子の図(殷元良筆)	〃	〃	〃	〃
	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
	紙本着色奉使琉球図(朱霍年筆)	1巻	〃	〃	〃
工 芸	三味線江戸与那	1挺	昭33. 8.15	県立博物館	沖縄県
	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	昭33. 3.14	〃	〃
	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	昭31.12.14	〃	〃
	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	3口	〃	〃	〃
	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54. 9. 3	〃	〃
	綿彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
	象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
典 籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
	〃 中山世譜	19冊	〃	〃	〃
書 籍	程 順 則 の 書	1巻	昭42. 4.11	県立博物館	沖縄県
古 文 書	宮古島下地の首里天屋子への辞令書	1幅	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1巻	昭49.11.11	〃	〃
	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1幅	昭53. 4. 1	〃	〃
	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3.30	〃	〃

誌(抄) (昭和59年4月1日～昭和60年3月31日)

昭和60年3月3日

指定年月日	所在の場所
昭和48. 6. 6	県立博物館
"	"
昭和53. 6. 15	県立博物館
"	"

指定年月日	所在の場所
昭和53. 3. 14	県立博物館
"	"
昭和54. 9	県立博物館
"	"
昭和54. 1	"
"	"
昭和58. 15	県立博物館
昭和59. 14	"
昭和59. 14	"
"	"
"	"
昭和60. 3	"
"	"
"	"
"	"
"	"
"	"
県立博物館	沖縄県
"	"
県立博物館	沖縄県
県立博物館	沖縄県
"	"
"	"
"	"

日 人事異動。上間尚子（主事）、与那嶺一子（学芸員補）着任。大城逸朗（主任学芸員）、村山佐代（主事）転出。日本伝統工芸会一行37名来館。

日 那覇消防本部より消防点検。

8日 二階收藏庫燻蒸。

10日 沖縄総合事務局長小林悦夫氏来館。

17日 国税庁官来館。

20日 早稲田大学総長一行来館。

24日 博物館友の会評議員会。

25日 沖縄電力職員研修15名来館。

28日 第117 回文化講座「三味線解説会」講師：又吉真三氏。

1日 沖縄県博物館協会理事会及び幹事会開催。

2日 沖縄県史料編集所（金城・高良）文書記録撮影。鹿児島大学下野敏見教室8名来館。

7日 受電設備、消防施設点検。

9日 埼玉県議会一行21名来館。

10日 前国税庁長柴田氏来館。長崎県財務課長一行3名来館。

12日 全国表具研修会大会一行96名来館。

14日 沖縄展「生活の知恵と古民具展」(西武百貨店主催)に民具資料貸出し協力(7月16日まで)。

15日 企画展「昭和58年度新収蔵品展」開催（5月27日まで）。

16日 社会教育課長大城藤六氏施設視察のため来館。

17日 石厨子等2基、島袋正次郎氏（那覇市）より寄贈。

23日 国民金融公庫副総裁渡部氏来館。石垣市教育長浦本真正氏、移動博物館の日程調整のため来館。

29日 大城立裕館長、九州博物館協会会長に就任。「昭和58年度新収蔵品展」会期延期決定（6月17日まで）。

6月2日 「玉城朝薫生誕300年記念展」 展示委員会。

6日 国税庁岸田次長外3名来館。

9日 第118回文化講座「絵画解説会」講師：神山泰治氏・真栄平房敬氏。

11日 查丕烈筆「牡丹の図」、長嶺将秀氏（那覇市）より寄贈。

2日 元開発庁長官植木氏来館。ハワイニ・三世一行来館。

4日 朝鮮民主主義人民共和國要人外20名來館。

5日 沖縄博物館協会研修会開催 於名護市博物館（16日まで）

16日 国税庁渡辺氏一行来館。

- 18日 前期燻蒸（22日まで）、展示替え（29日まで休館）
- 30日 企画展「玉城朝薫生誕三百年記念展－琉球芸能の世紀－」開催（7月22日まで）
- 7月3日 交換留学生（那覇中学校配属）6名来館。
- 7日 博物館友の会「伊江島の史跡めぐり」（8日まで）。
- 13日 バングラデッシュ駐日大使夫妻来館。
- 14日 第119回文化講座「琉球芸能の世紀」展示解説会 講師：池宮正治氏。
黒沢国立科学博物館動物研究部長来館。
- 19日 長崎県総務部次長一行来館。
- 23日 展示替え（歴史、美術工芸室）。
- 26日 記者会見「夏休みの行事について」於教育庁。
- 28日 第120回文化講座「昆虫教室」講師：長嶺邦雄氏外、沖縄昆虫同好会。
- 31日 企画展「沖縄のシダ・貝・昆虫標本展」開催（9月2日まで）。古箏「楓」一面
屋部公子氏（那覇市）より寄託。
- 8月4日 第121回文化講座「陶芸教室」講師：宮城勝臣氏。
- 7日 岡山県議一行12名来館。琉球放送テレビが企画展「沖縄のシダ・貝・昆虫標本
展」を取材、放映。
- 8日 琉球大学教授大城志津子氏、収蔵品の織物調査のため来館。沖縄テレビが企画
展「沖縄のシダ・貝・昆虫標本展」を取材。
- 11日 アルゼンチン移民局局長一行来館。 東京退職教職員団体12名来館。
- 15日 玉城小学校家庭教育学級50名来館。
- 18日 台風10号接近のため午後2時より休館。（19日まで）
- 25日 第122回文化講座「拓本教室」講師：崎間麗進氏、上江洲敏夫学芸員。
- 26日 第123回文化講座「標本鑑定会」。 第124回文化講座「第1回民具教室」 講
師：上江洲均学芸員。
- 9月11日 午前中電気工事のため停電（展示室は休室）。
- 12日 群馬県議一行14名来館。
- 14日 「21世紀のための友情」タイ青年23名、「タイ国農業青年団」一行来館。
- 17日 謝花雲石書一幅、親泊元高氏（那覇市在）より寄贈。 琉球大学教授小島環禮
氏梵鐘調査のため来館。
- 18日 沖縄観光協会一行来館。
- 19日 国立台湾大学兼任教授曹永和氏来館。
- 20日 石垣市立八重山博物館職員石堂氏、移動博物館事務調査のため来館。
- 22日 博物館友の会第5会研修旅行「浜比嘉島、伊計島、宮城島の史跡と民芸の旅」
（23日まで）。
- 26日 「孫氏家譜」石橋英一氏（浦添市在）より寄贈。
- 28日 「F, E L D I N G, S」の記者木下氏来館。

示替え (29日まで休館)

年記念展「琉球芸能の世紀」開催 書5点、玉城仁用氏 (那覇市在) より寄贈。
属) 6名来館。

史跡めぐり」(8日まで)。
妻来館。

の世紀」展示解説会 講師：池田老人福祉センター148名、博物館研修のため来館。
部長来館。

て」於教育庁。

講師：長嶺邦雄氏外、沖縄昆虫次郎氏 (那覇市在) より寄贈。 獅子頭、象乗り観音座像、宜
本展」開催 (9月2日まで)。

師：宮城勝臣氏。 道路公団職員20名来館。

テレビが企画展「沖縄のシダ・多動博物館 (石垣市) のため出品物積出し。

の織物調査のため来館。 京都府教育庁福利課職員3名来館。

を取材。 沖縄第8回移動博物館 於石垣市 (11月4日まで)

東京退職教職員団体12名来館 神奈川大学教授来武国弘氏外2名来館。

。(19日まで) 島根県議会議長森山金一氏来館。 県内「一人暮らし老人の会」一行来館。

崎間麗進氏、上江洲敏夫氏 兵庫県議会文教委員会一行17名来館。 鹿児島県老人の船一行来館。

124回文化講座「第1回民具 観世流「能・道成寺」公演一行来館。

室)。 東ドイツ政治・経済研究所所長来館。

第127回文化講座「石碑めぐり」講師：崎間麗進氏

岐阜県総務課課長来館。

タイ国農業青年団」一行来 中国楽器 (三弦、筒、明笛) 崎間敏勝氏 (浦添市在) より寄贈。 文部省学校

より寄贈。 琉球大学教授 給食課課長補佐河野秀雄氏外2名来館。

第128回文化講座「貝塚時代の土地解説会」講師：知念勇学芸員。 スペイン

大使館員一行8名来館。

館事務調査のため来館。 最高検察庁石黒氏外5名来館。

計島、宮城島の史跡と民具 中国人民対外友好団一行15名来館。

増。 教育庁文化課渡名喜明専門員、阿波根調査員、収蔵品の金石文調査のため来館。

本日より年末年始のため休館 (1月4日まで)

日 施姓家譜1冊、戸籍謄本2冊、工工四2冊、給与・役職辞令9枚、佐渡川興晃

- 氏(東大阪市在)より寄贈。 民俗資料1点山城由照氏(宜野湾市在)より寄贈。
- 8日 金沢工業ライブラリセンター館長酒井悌氏外4名来館。
- 10日 北海道郵政局長加宮田登氏来館。 前進座俳優2名来館。
- 11日 北海道開発調整部経済調査室長清水邦昭氏来館。 沖縄博物館協会理事会及び幹事会開催。
- 12日 識名霊園より厨子甕50点搬入。
- 13日 沖縄貝類標本館仲嶺博富氏、貝類標本整理指導のため来館。
- 17日 元中国大使小川夫妻来館。
- 18日 自治大学校長岩田修氏外2名来館。 九州管区法務局研修会一行19名来館。
- 19日 博物館友の会新年会。 国税庁職員2名来館。
- 20日 東京都足立区社会教育部管理課課長浦城浩之氏、博物館調査のため来館。
- 22日 元京都府警本部長柏原氏夫妻来館。
- 25日 日本生命財団仲西氏、図録関係調査のため来館。
- 2月8日 文部省初等中等教育局教科調査官塩野勇氏来館。
- 9日 文化庁芸術館長渡辺通弘氏来館。
- 19日 後期館内燻蒸、展示替え(25日まで)
- 26日 企画展「紅型衣裳と型紙展」開催(3月10日まで)
- 27日 土地売渡証書、宮城雄一氏(那覇市在)より寄贈。
- 3月1日 西隆弘氏(北九州市在・昭和57年に唐拓と八重山風俗図を当館に寄贈)来館。
- 2日 第130回文化講座「紅型の世界解説会」講師:渡名喜明氏
- 3日 沖縄県人材育成財団島袋氏外2名来館。
- 5日 軽便鉄道レール2本、金城敬三郎氏(南風原町在)より寄贈。
- 6日 山口市立美術館館長財津永次氏来館。
- 10日 三重短期大学教授角田保氏、当館収蔵のナウマンゾウ等の実測のため来館。
- 11日 開発庁振四課長補佐吉田氏、施設調査のため来館。 記者会見「1, 稲垣遺品の件 2, 軽便鉄道レールの件」於館長室。
- 12日 宮崎県総合博物館総務課長田中君彦氏来館。
- 13日 沖縄バス、ガイド研修一行来館。
- 20日 沖縄県立博物館査定委員会発足。 大嶺薫コレクションのため査定委員会
- 22日 神奈川史跡めぐり一行来館。
- 23日 日本貿易促進協会8名来館。
- 24日 名瀬市社会教育課係長境賢勇氏施設調査のため来館。
- 27日 名護市立博物館協議会委員会一行来館。
- 29日 大嶺薫コレクション贈呈式及び記者会見。
- 31日 駐日イタリア大使来館。

当館関係条例規則(抄)

○沖縄県立教育機関設置条例(昭和57年5月15日 条例第24号)

最終改正 昭和53年3月29日条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を取集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(昭和47年5月15日 教育委員会規則第2号)

最終改正 昭和53年4月1日教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)に規定する教育機関組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第2条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の係を置く。

庶務係

学芸係

教育普及係

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (7) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (8) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (9) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (10) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (12) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。
- (13) 前各号に定めるもののほか、博物館に関する必要な事務に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則(昭和47年5月15日)

教育委員会規則第13号

〔沿革〕 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに分布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日

(3) 慰霊の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第5陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号に一一該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

(1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの

(2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの

(3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの

(4) 社会教育上不適當であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

第1号様式 (第11条関係)

博物館資料寄贈申込書		昭和	年	月	日
沖縄県立博物館長 殿		④			
申込者		住所氏名			
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。					
1	種別	記			
2	作者名				
3	作品名				
4	製作年月日				
5	附属品				
6	資料の所在地				
7	時価見積額				
8	寄贈の理由				

受諾書		昭和	年	月	日
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。		④			
		沖縄県立博物館長			

第2号様式 (第11条関係)

博物館資料寄託申請書		昭和	年	月	日
沖縄県立博物館長 殿		④			
申請者		住所氏名			
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。					
1	種別	記			
2	作者名				
3	作品名				
4	製作年月日				
5	附属品				
6	資料の所在地				
7	寄託期間	昭和	年	月	日から
		昭和	年	月	日まで

第3号様式 (第11条関係)

博物館資料受託承認書		昭和 年 月 日
博物館資料受託承認書 昭和 年 月 日付け申請のあった博物館資料の寄託については、下記により受託します。 記		④ 沖縄県立博物館長
1 種別		
2 作者名		
3 作品名		
4 製作年月日		
5 附属品		
6 受託期間	昭和 年 月 日から	昭和 年 月 日まで
7 備考		

第4号様式 (第18条関係)

博物館施設使用許可申請書		昭和 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿 申請者氏名 ④ 電話 下記により貴館施設を使用したいので、許可してくださるようお願いいたします。 記		
1 使用者	団体名 及び 代表者名 印 職業 ()	
2 使用目的	住所 電話	
3 使用する施設	1 ホール 2 臨時陳列室	
4 使用する日時及び期間	自：昭和 年 月 日 午 時 分 ()	
	至：昭和 年 月 日 午 時 分 日間	
5 予定参加人員	人	
6 その他必要な資料 (プログラム等)		

許 可 書	月 日付申請の () 使用の件、申請どおり許可します。
昭和 年 月 日	④
	沖縄県立博物館長

○沖縄県立博物館協議会規則(昭和47年10月2日
教育委員会規則第29号)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行なうために必要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立博物館収集資料の査定要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、沖縄県立博物館で収集する資料の査定に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要綱において、査定とは収集資料を価格をもって評価することをいう。

(委員)

第3条 沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という）は、収集資料の査定の適正を図るため、次に掲げる条件を具備するもののうちから査定委員若干名を委嘱する。

(1) 収集する資料について学識経験を有するもの

(2) 人格が高潔で、かつ、公正な判断ができる者

(任期)

第4条 査定委員の任期は、1年以内とする。ただし、教育長が必要と認めた場合は、更新するものとする。

(任務)

第5条 査定委員は、収集資料について相互に協議し、適正な査定を行い、その結果を査定書により沖縄県立博物館長（以下「博物館長」という）に提出しなければならない。

査定委員は、互選により委員長を選出する。

(資料の調査研究)

第6条 博物館長は、購入予定又は寄贈申し込みのあった資料について、あらかじめ所有者から必要な期間寄託を受けて調査研究することができる。

第7条 この要綱に定めるもののほか収集資料の査定に関し、必要な事項は、博物館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和60年3月30日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例(昭和47年5月15日
条例第37号)

最終改正 昭和54年3月29日条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納付)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の校料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和53年3月29日条例第16号抄)

1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。

2 この条例は、昭和54年4月1日から施行する。

別表第1(博物館の入館料) (第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	100円
大学生及び高校生	50円
中学生及び小学生	20円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報 No.18 (昭和59年度)

昭和60年5月30日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 沖縄県那覇市首里大中町1の1

☎ 903 TEL:0988-84-2243

印刷 文進印刷株式会社

住所 沖縄県那覇市上間567

TEL:0988-55-2323 (代)